

第4回症例検討会

症例 1

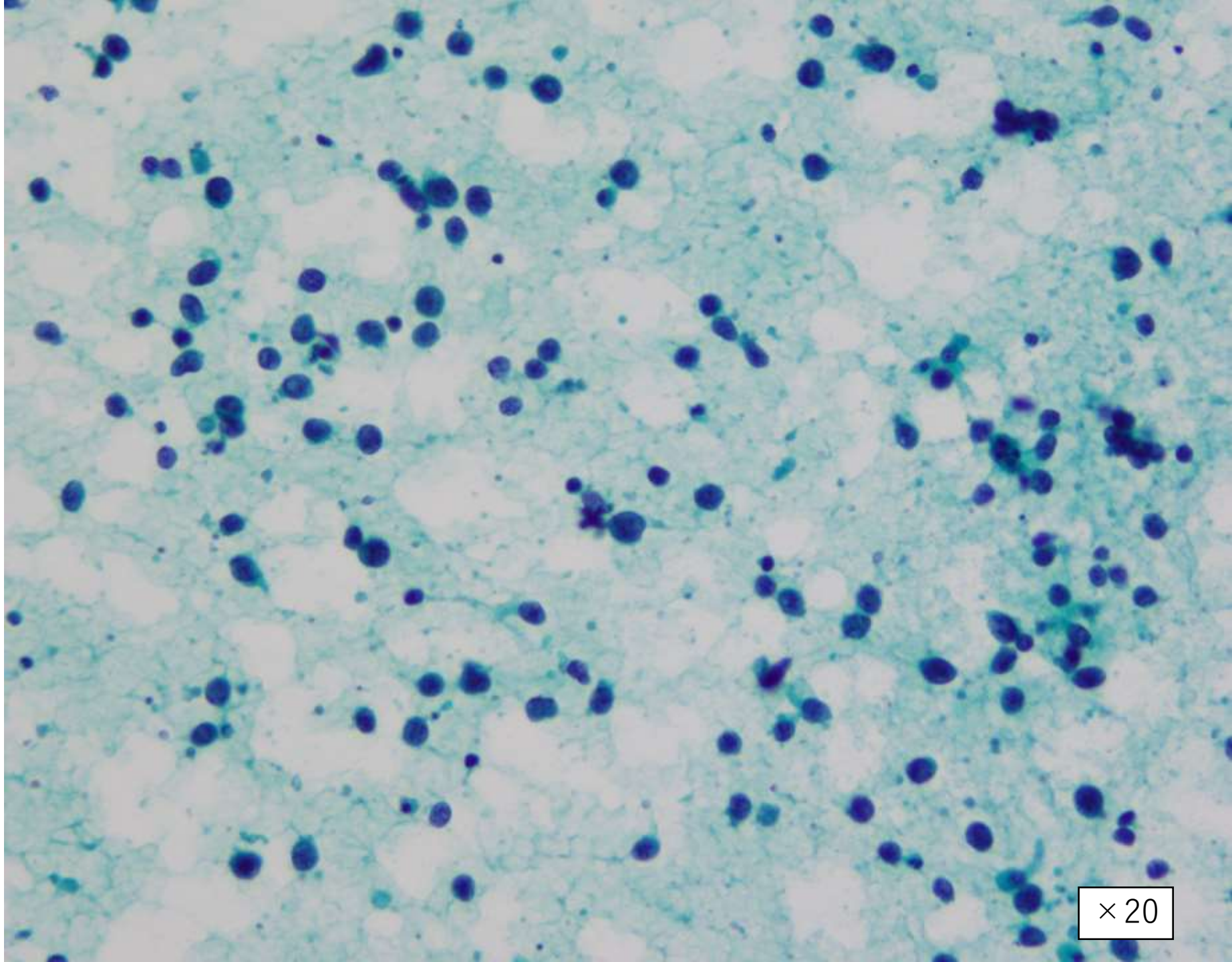
症例 1

【患者】 70代、男性

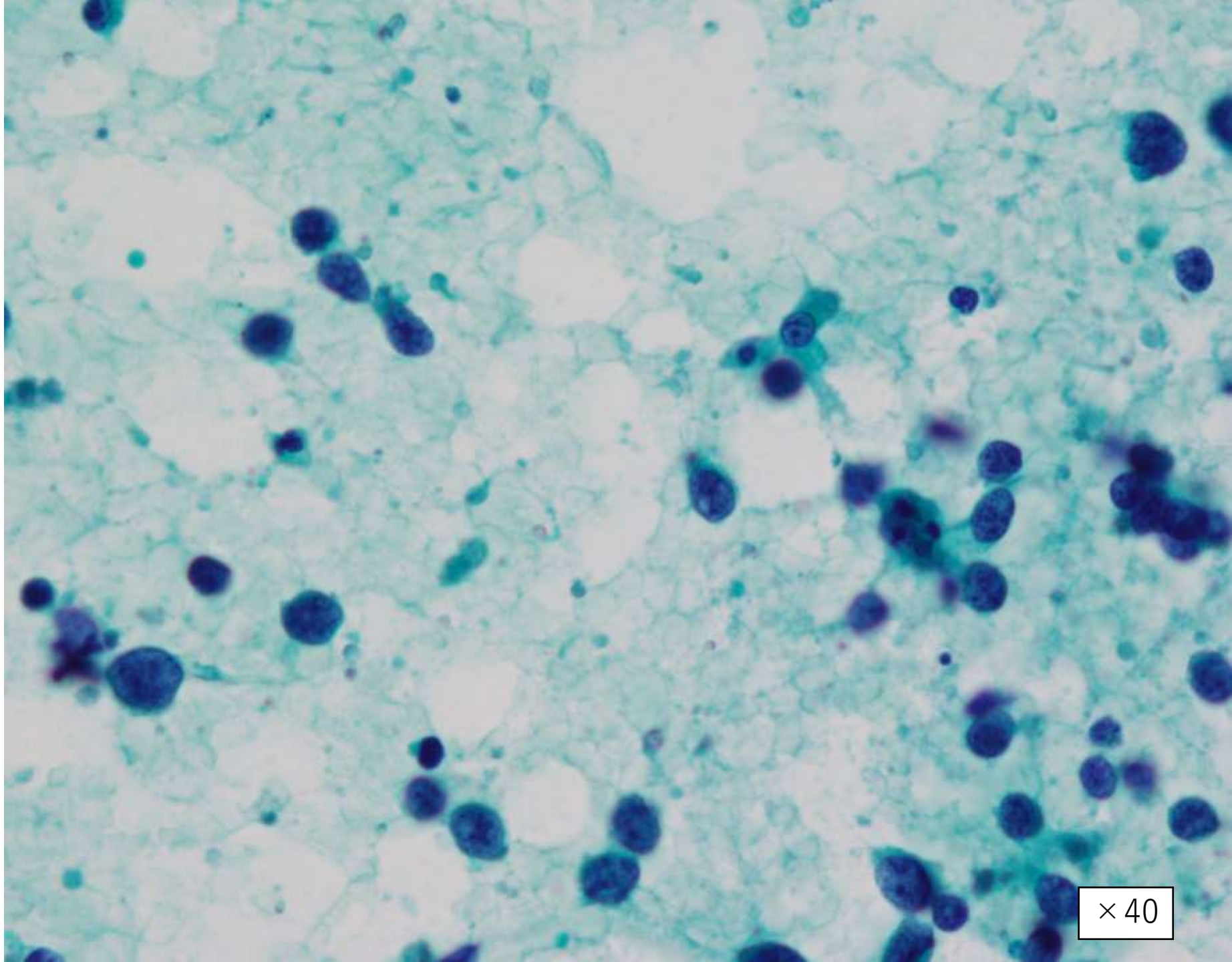
【既往歴】 7年前に口腔底癌

【現病歴】 放射線骨壊死、口腔底部白板症でフォロー中の患者。頸部腫脹を自覚し、両側頸部に可動性の腫脹認める。造影MRIにて両側頸部多発リンパ節腫脹と舌根部腫瘤を疑われた。

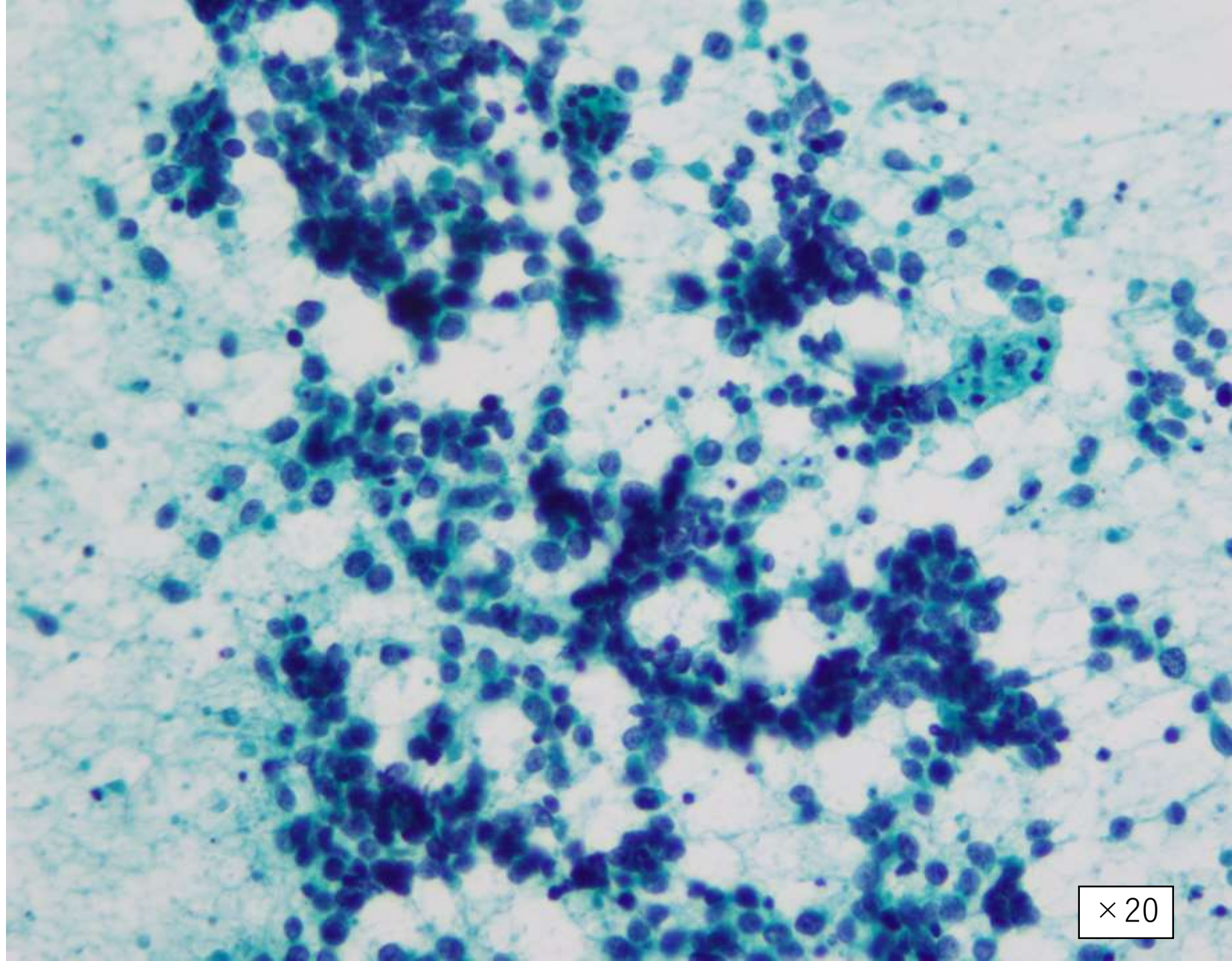
【検体】 頸部リンパ節穿刺吸引 (Pap染色)

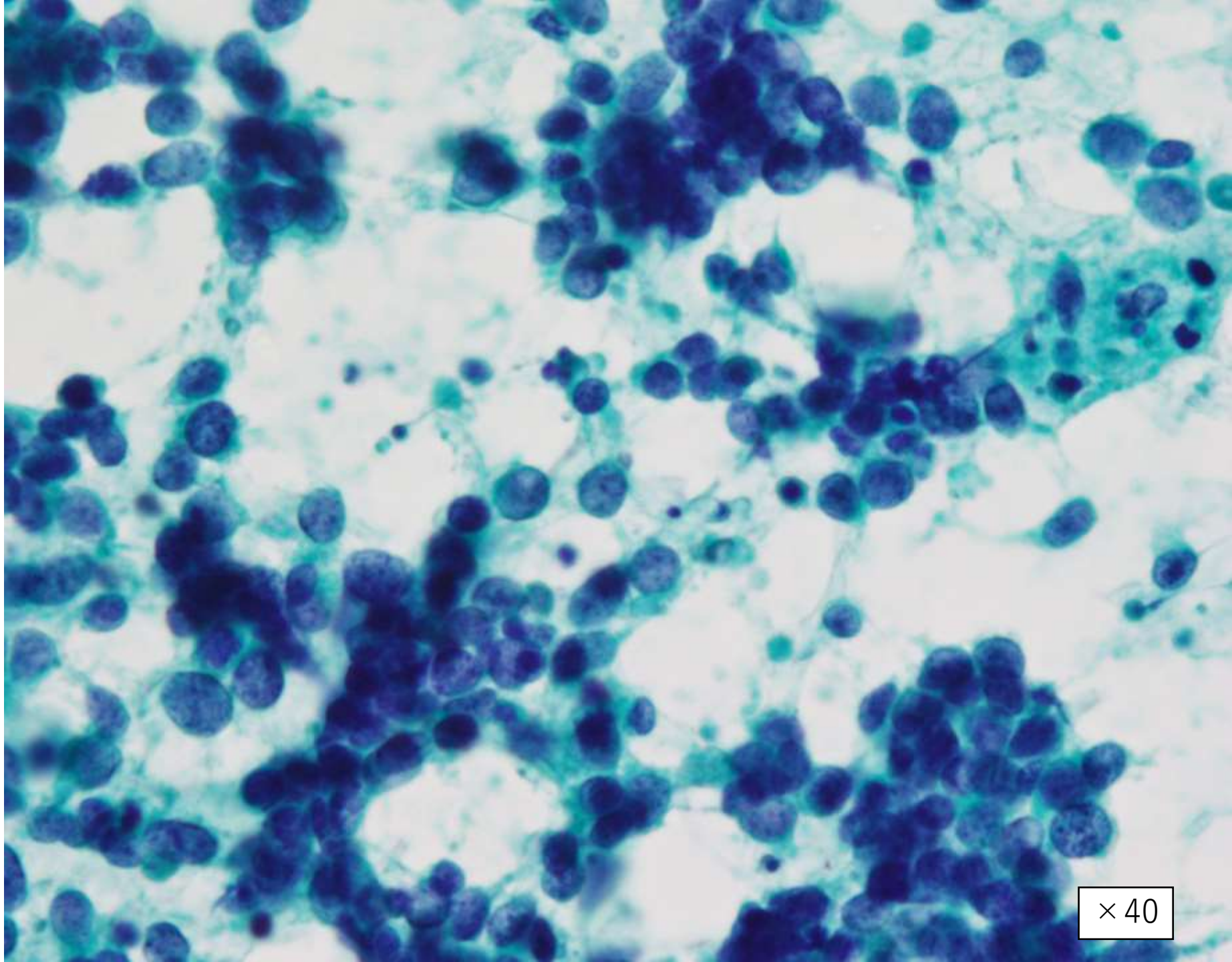


× 20

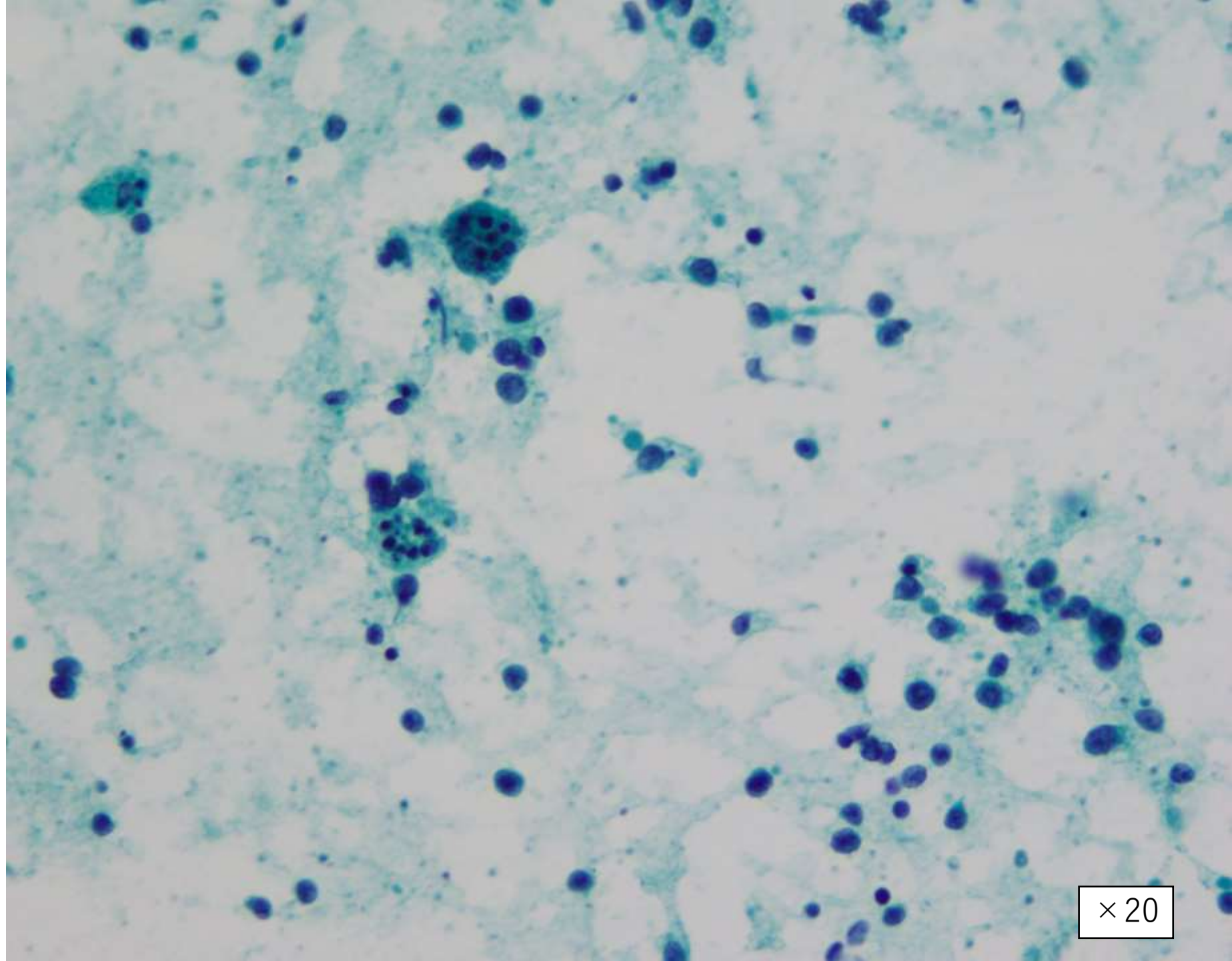


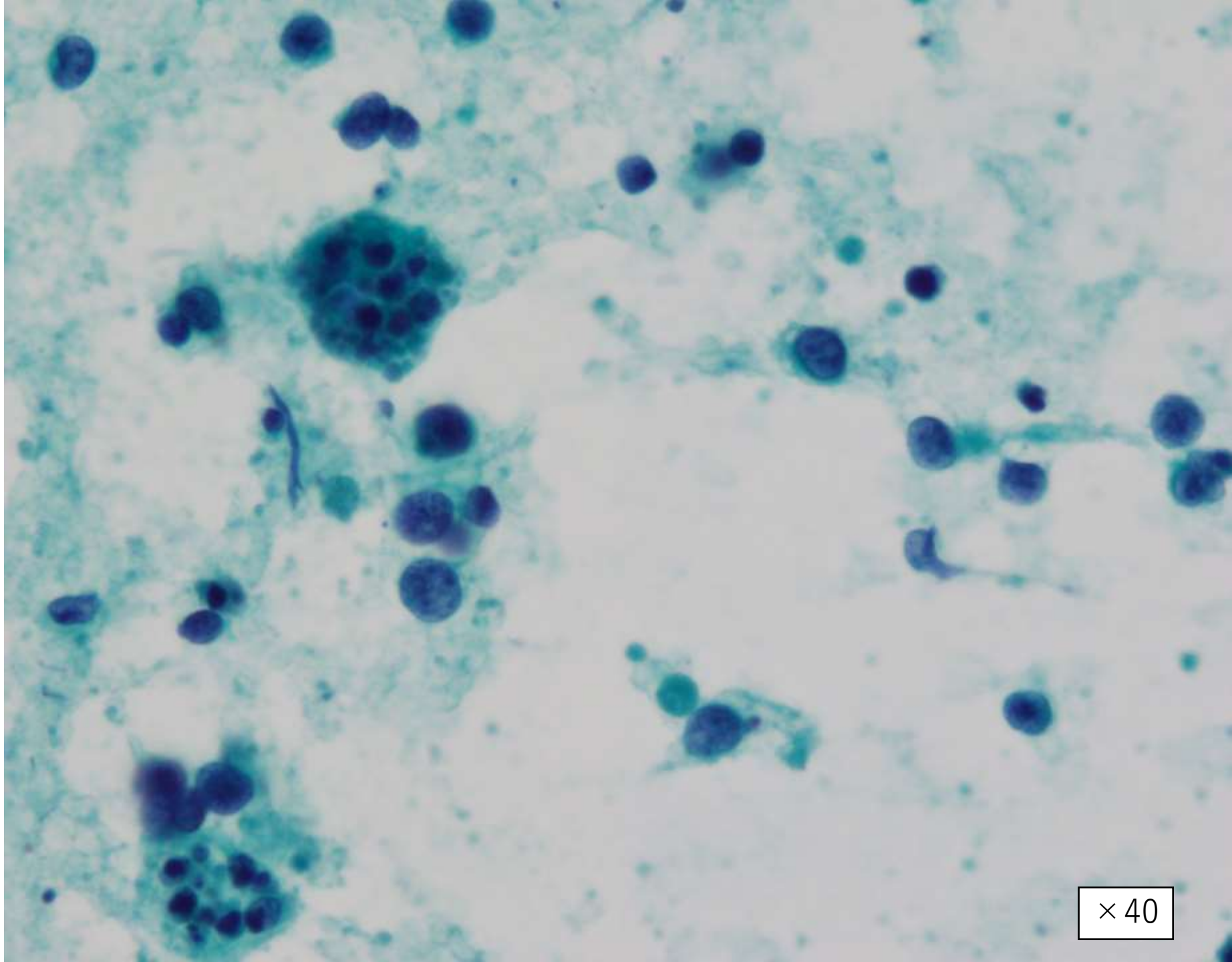
$\times 40$



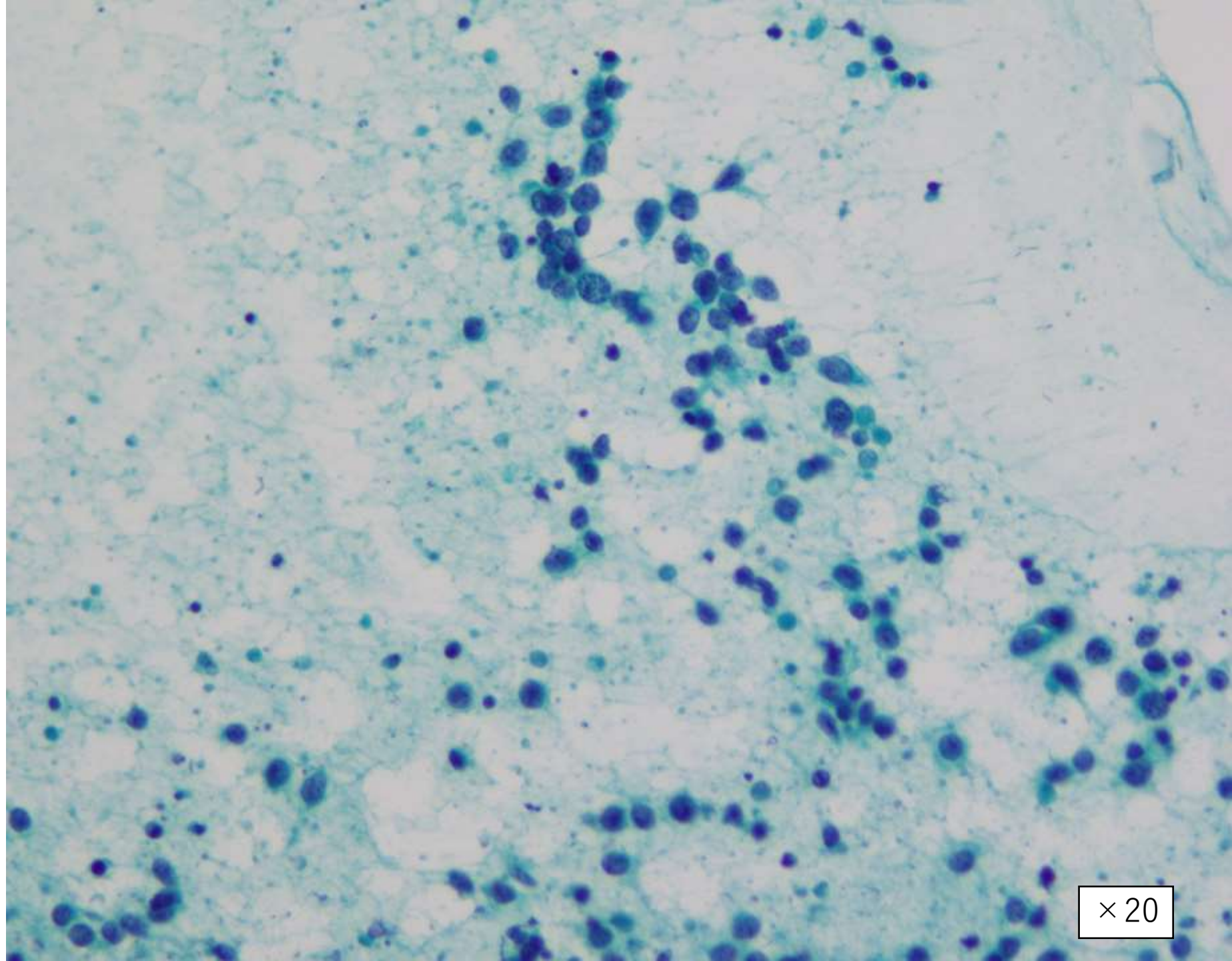


× 40

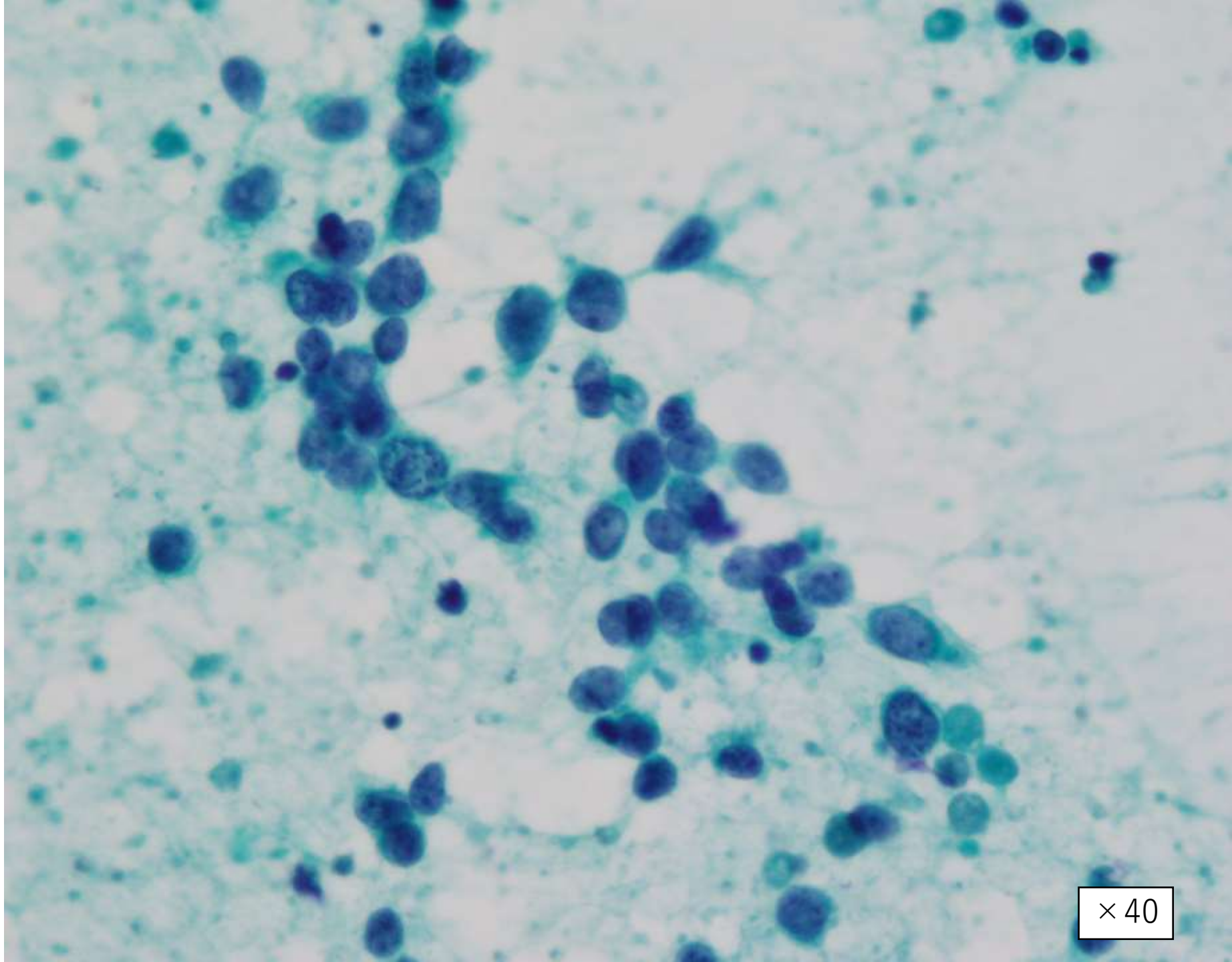




× 40



× 20



× 40

選択肢

1. 腺癌
2. 扁平上皮癌
3. 甲状腺乳頭癌
4. 腺様嚢胞癌
5. 神経内分泌癌
6. 悪性リンパ腫
7. 横紋筋肉腫

第4回症例検討会

症例 1 ：解説

熊本医療センター 松本明

症例 1

【患者】 70代、男性

【既往歴】 7年前に口腔底癌（扁平上皮癌）

【現病歴】 放射線骨壊死、口腔底部白板症でフォロー中の患者。頸部腫脹を自覚し、両側頸部に可動性の腫脹認める。造影MRIにて両側頸部多発リンパ節腫脹と舌根部腫瘤を疑われた。

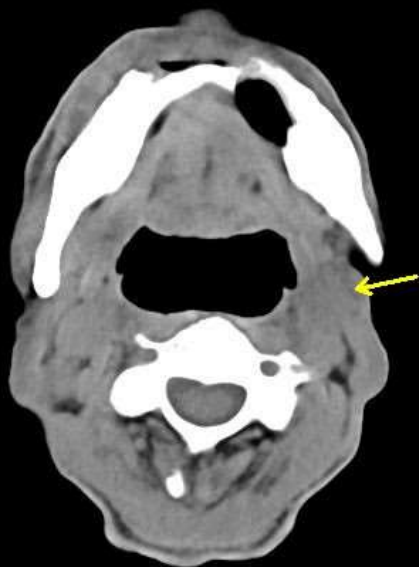
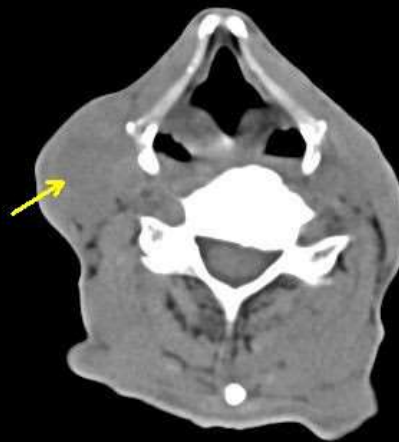
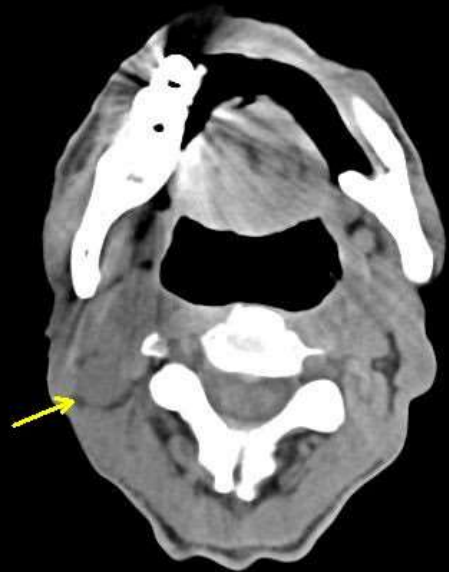
臨床的には、癌というよりはリンパ腫を疑う所見であった。

【検体】 頸部リンパ節穿刺吸引 （Pap染色）

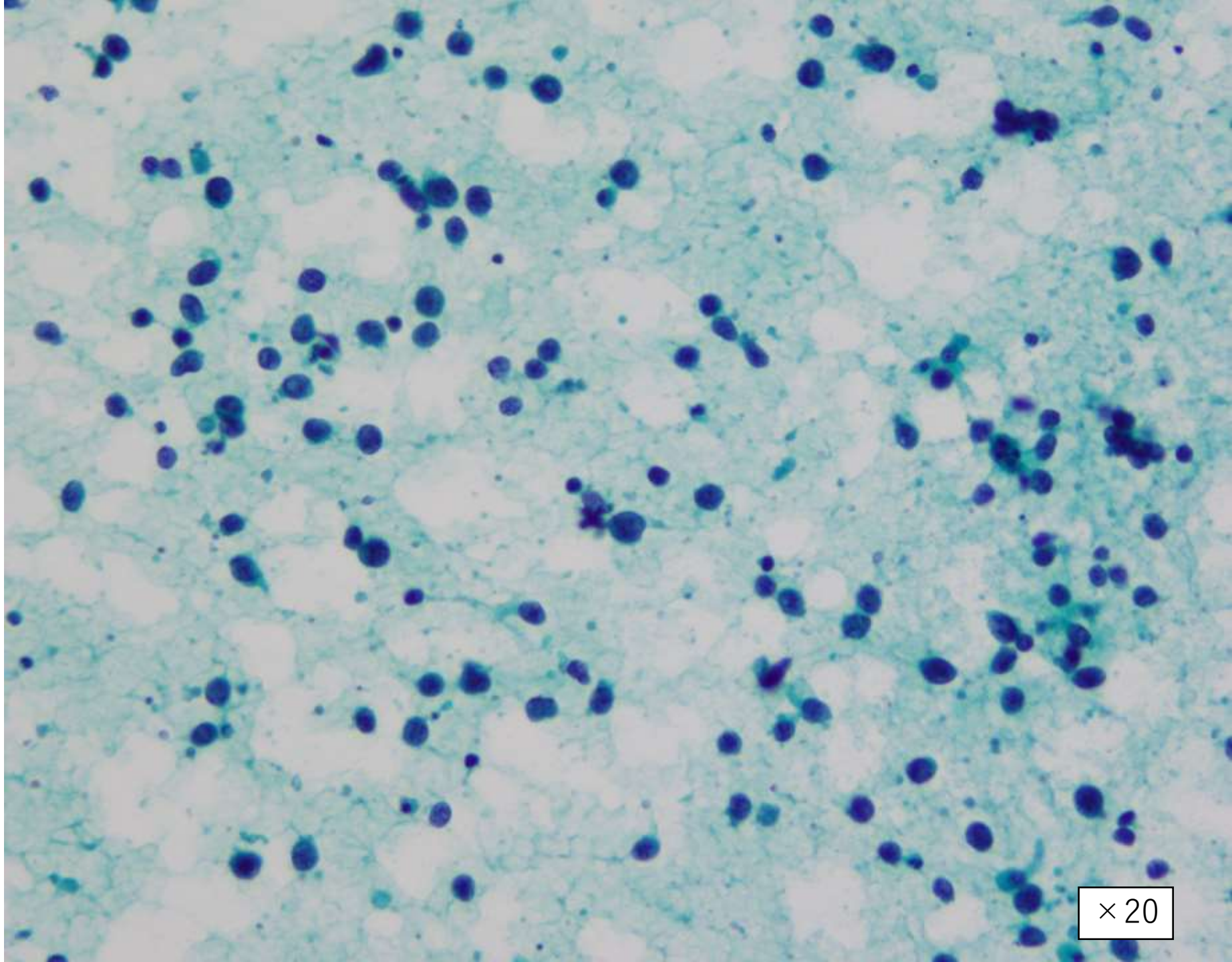
血液検査

- TP : 7.2 g/dL
- T-Bil : 0.7 mg/dL
- BUN : 17 mg/dL
- Cre : 0.58 mg/dL
- Glu : 113 mg/dL
- AST : 20 IU/L
- ALT : 18 IU/L
- LD : 173 IU/L
- CK : 71 IU/L
- ALP : 78 IU/L
- Na : 139 mEq/L
- K : 4.6 mEq/L
- Cl : 102 mEq/L
- Ca : 9.6 mg/dL
- CRP : 0.19 mg/dL
- フェリチン : 233 ng/mL
- SCC : 1.3 ng/mL
- sIL-2R : 661 U/mL
- WBC : $58.5 \times 10^2/\mu\text{L}$
- RBC : $445 \times 10^4/\mu\text{L}$
- Hb : 13.9 g/dL
- HCT : 41.5 %
- MCV : 93.3 fl
- MCH : 31.2 pg
- MCHC : 33.5 %
- PLT : $25.3 \times 10^4/\mu\text{L}$

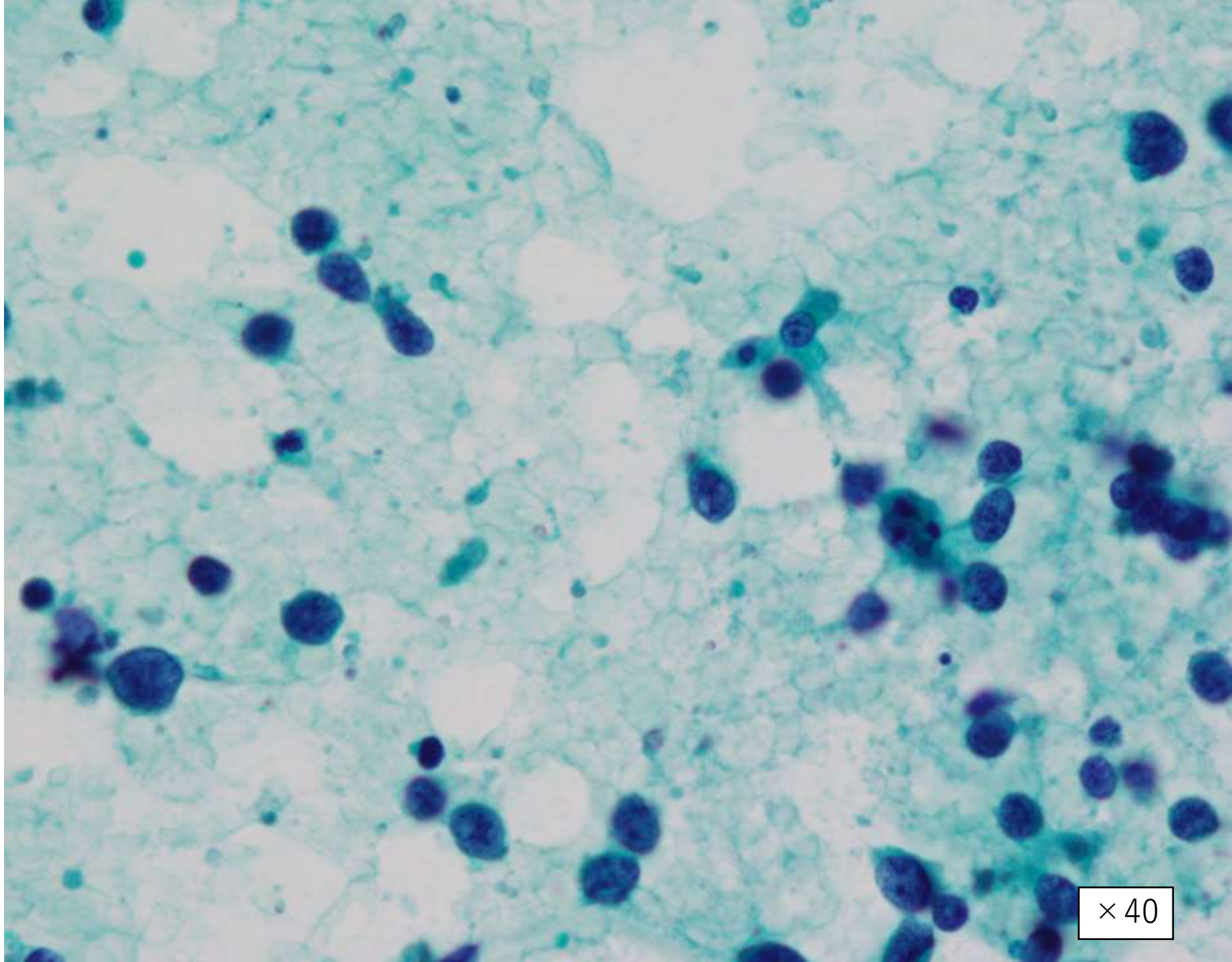
CT



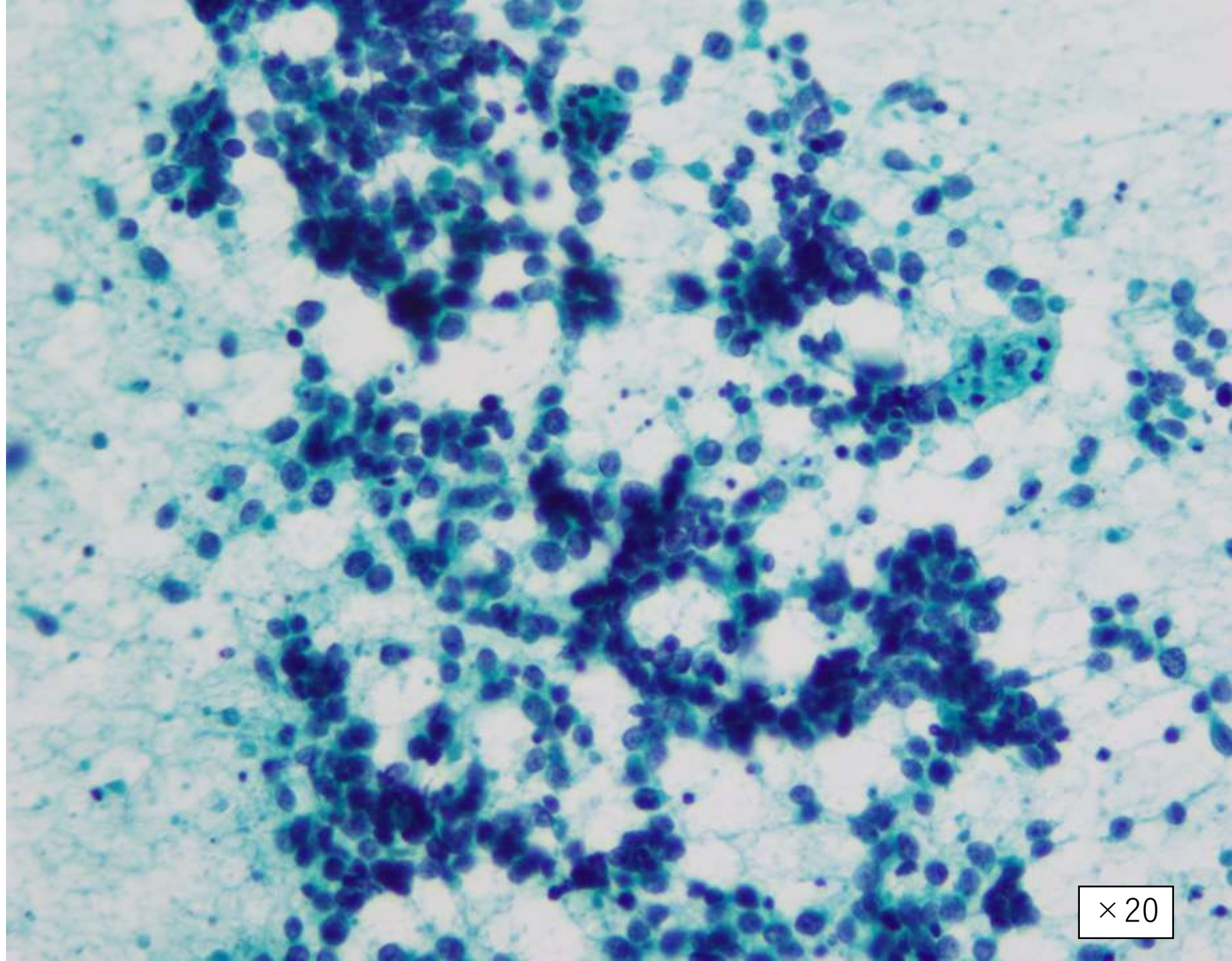
細胞診



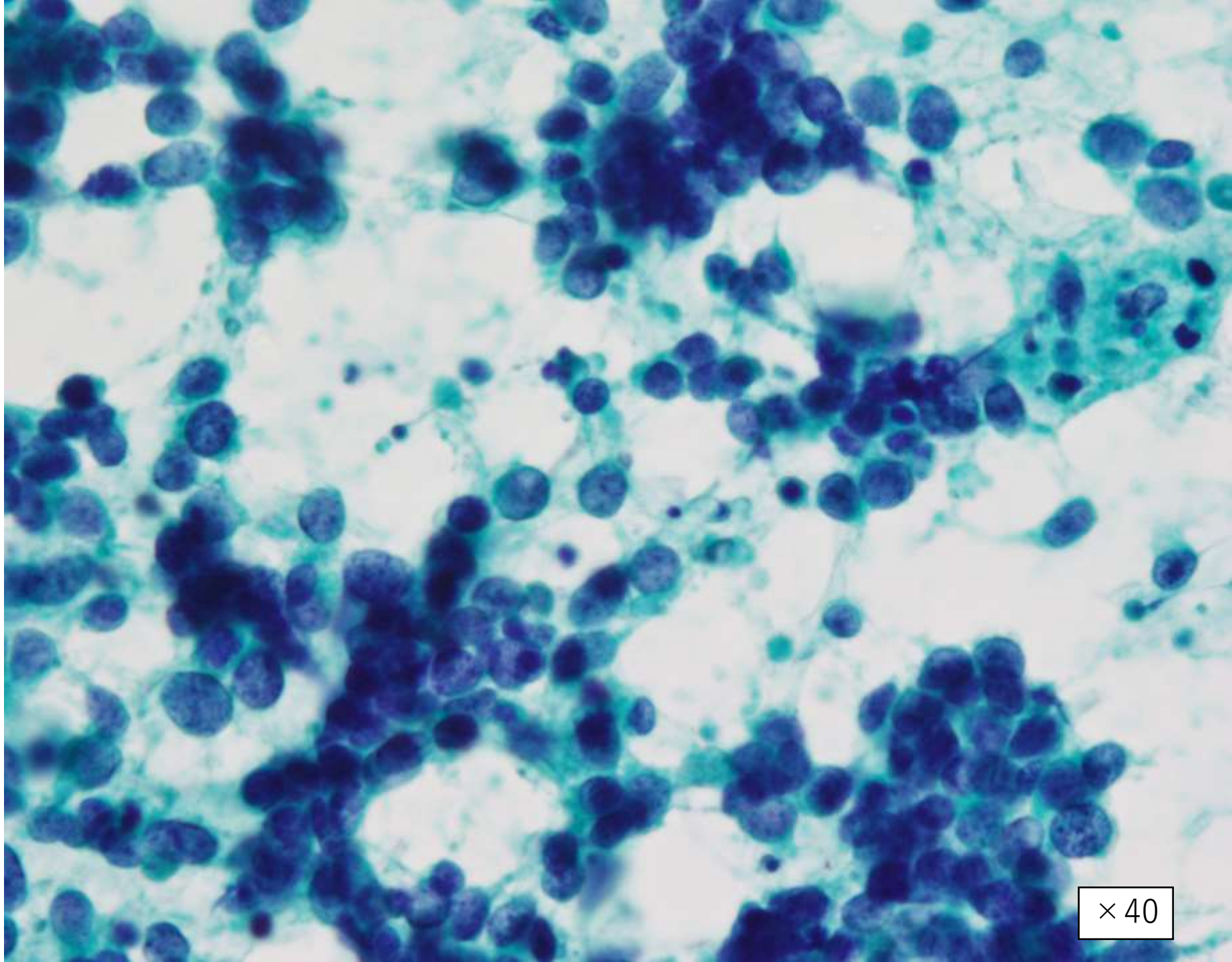
× 20

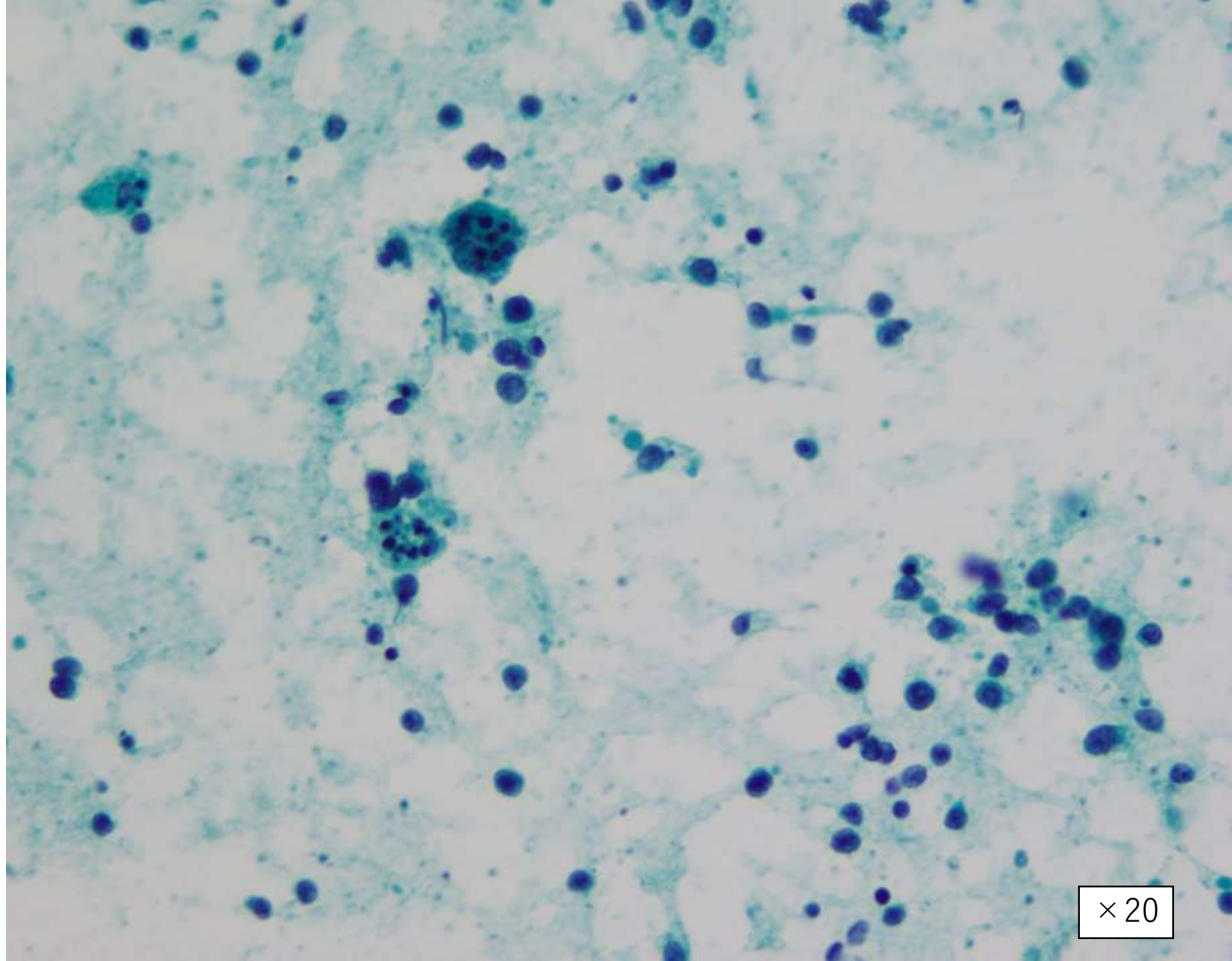


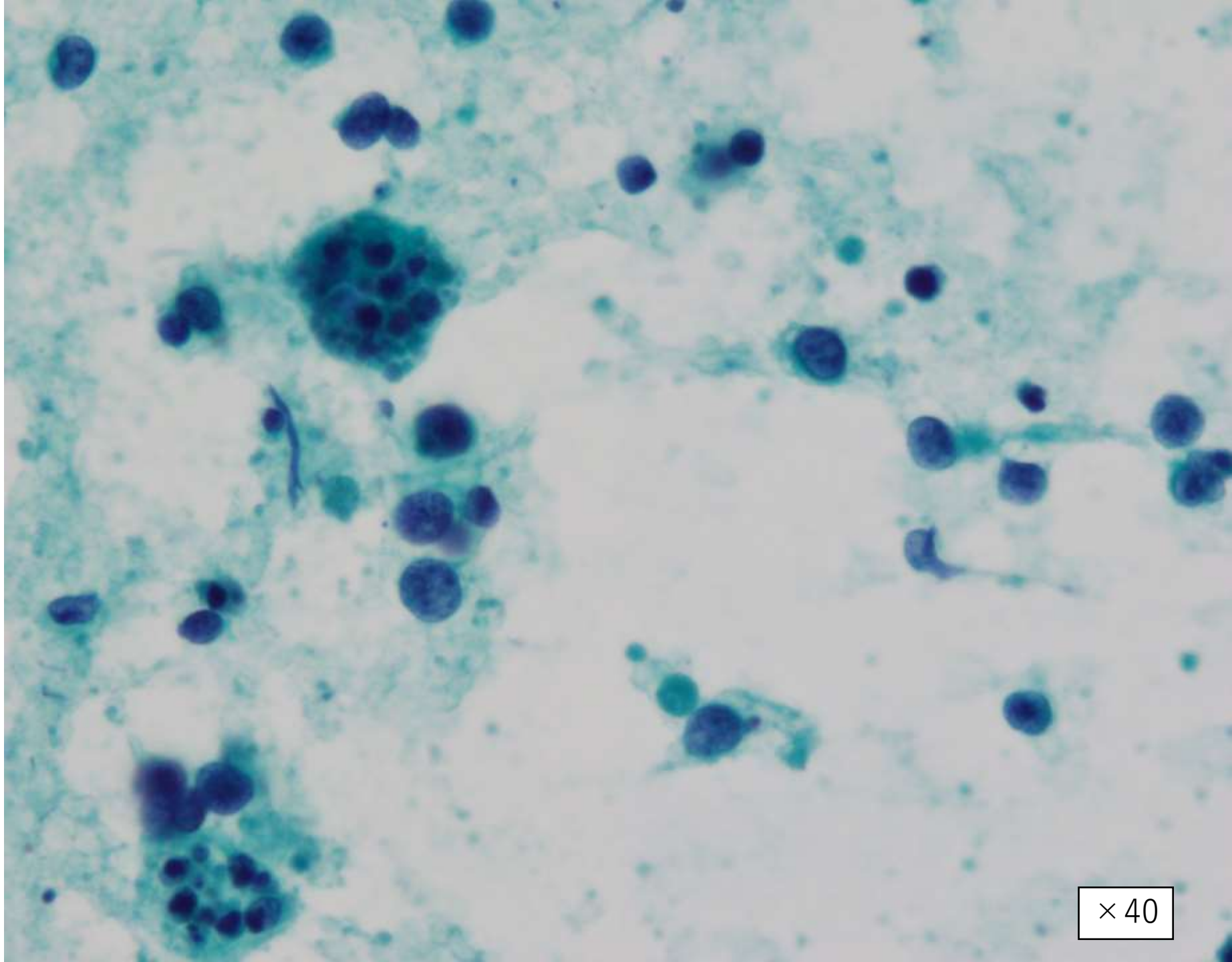
× 40



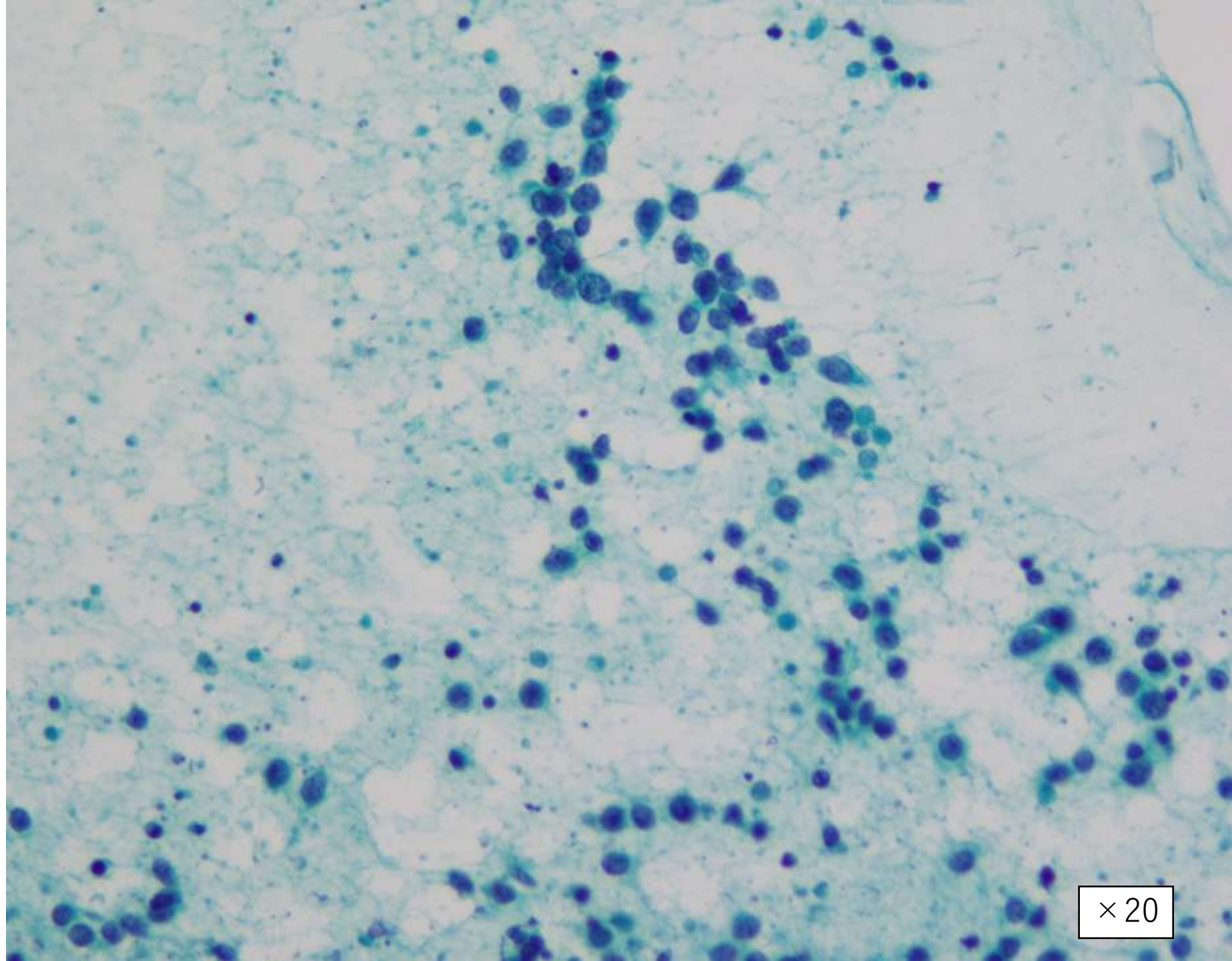
× 20



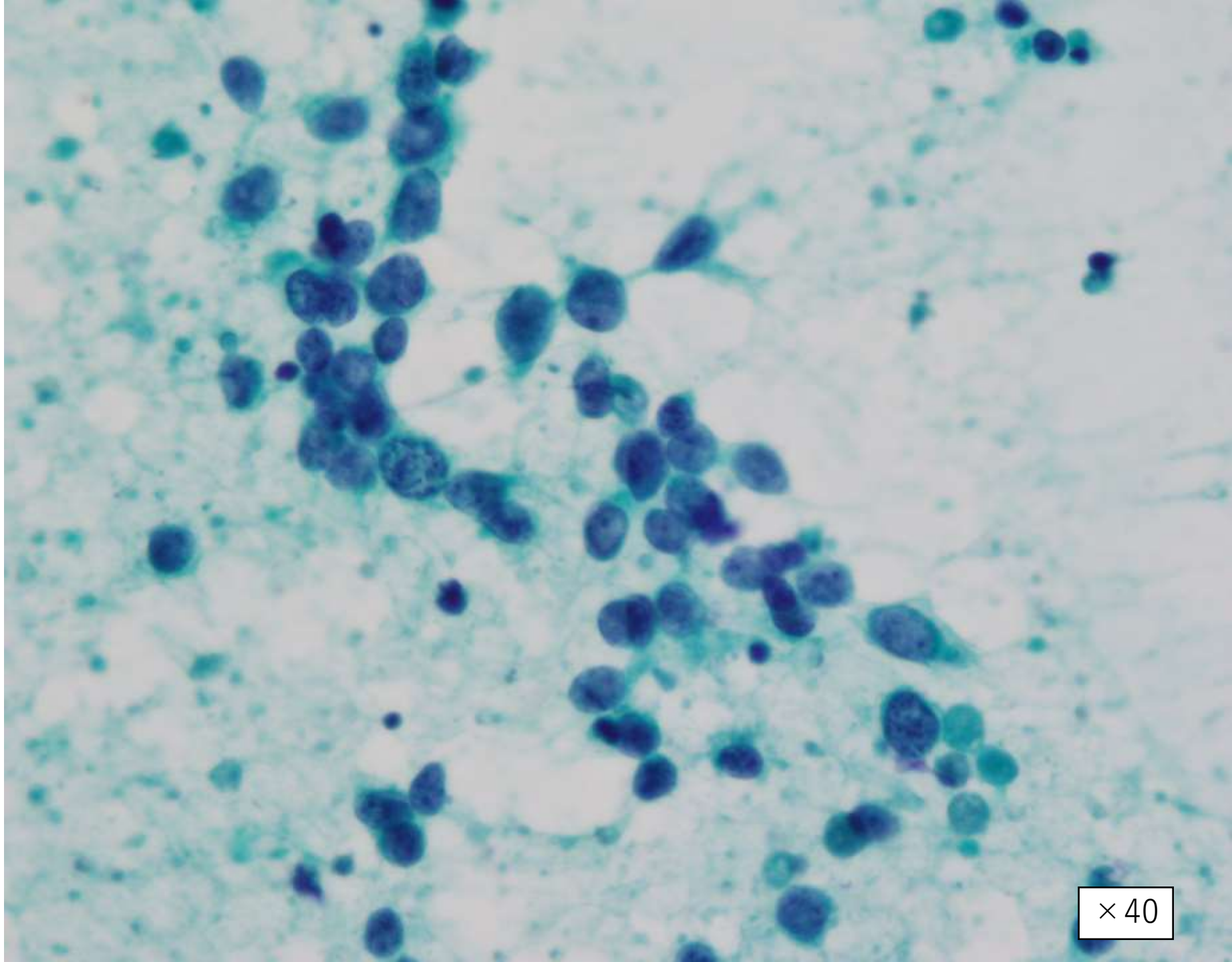




× 40



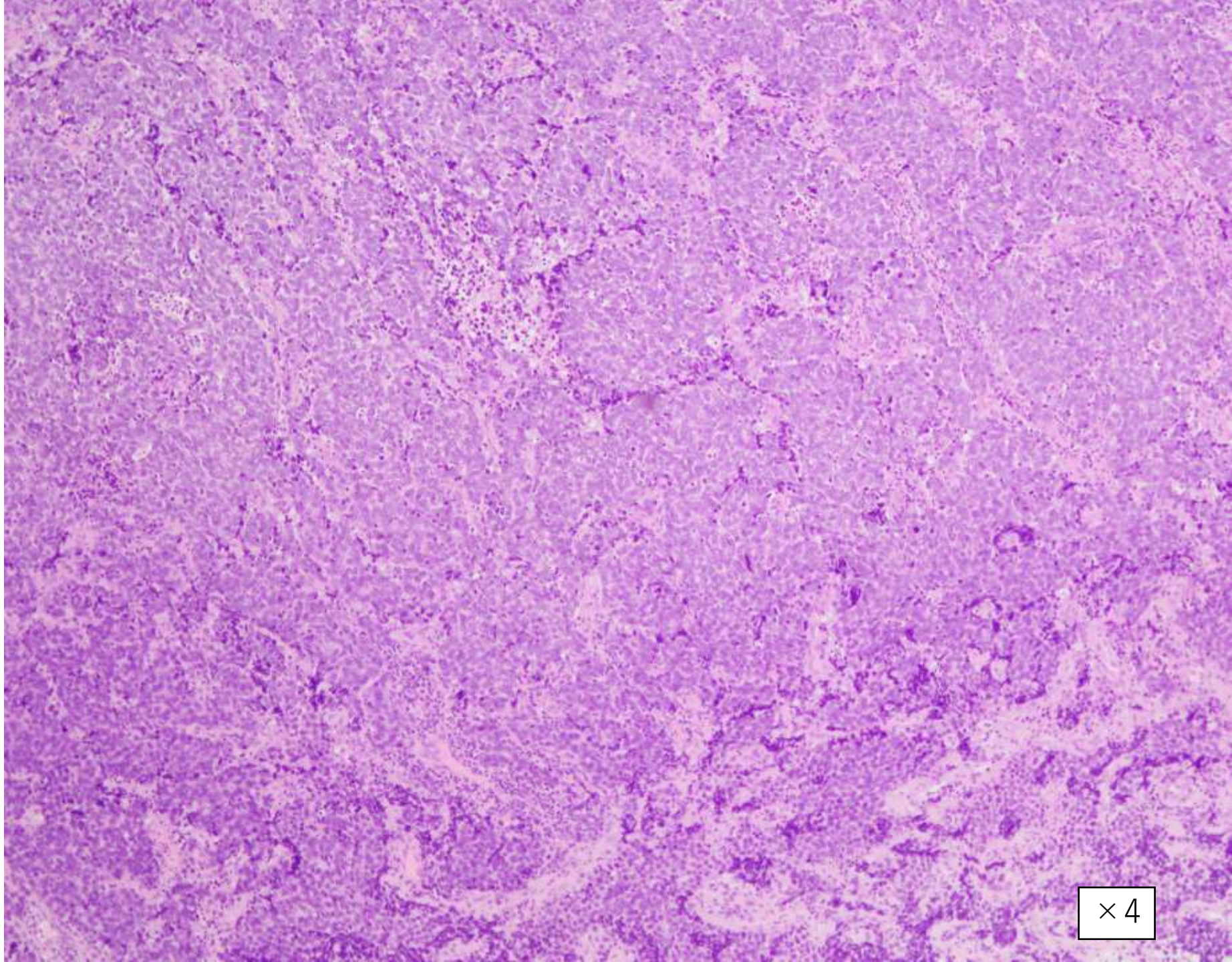
× 20



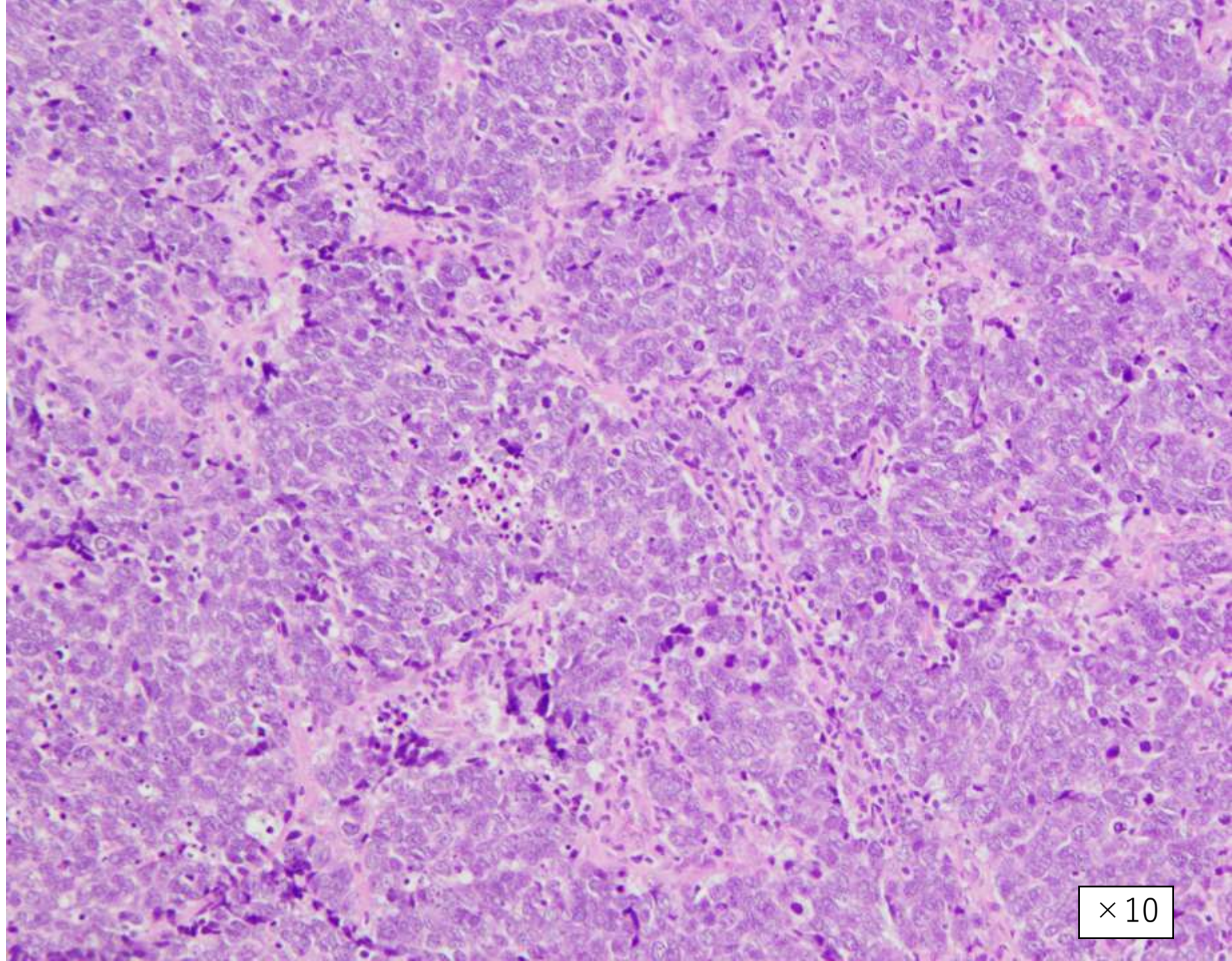
× 40

Malignant tumor

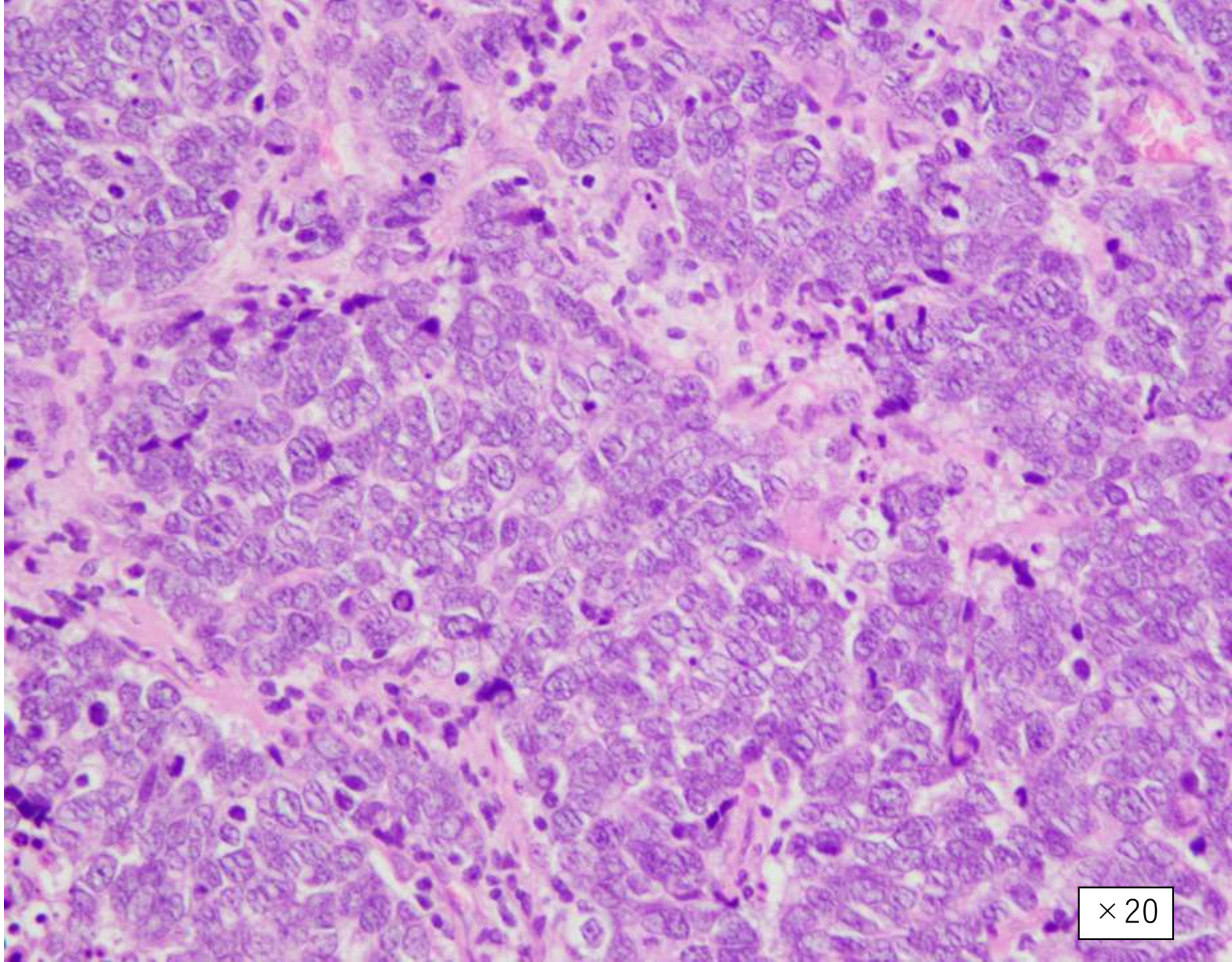
組織診



× 4

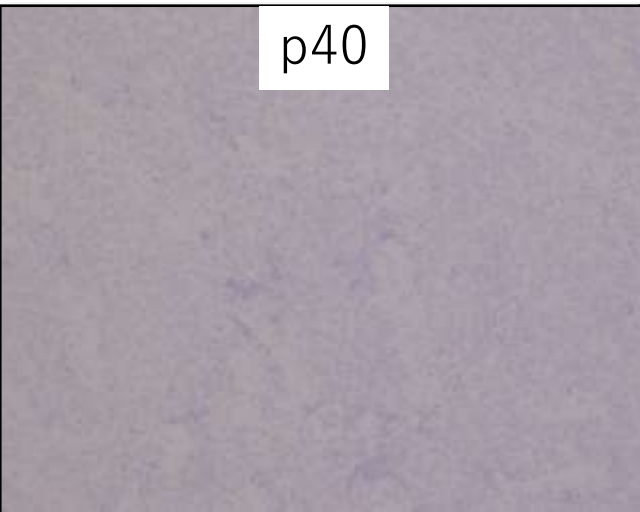


× 10

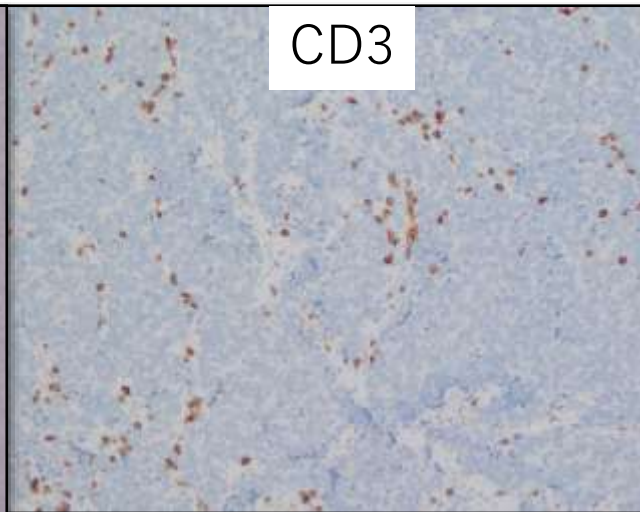


× 20

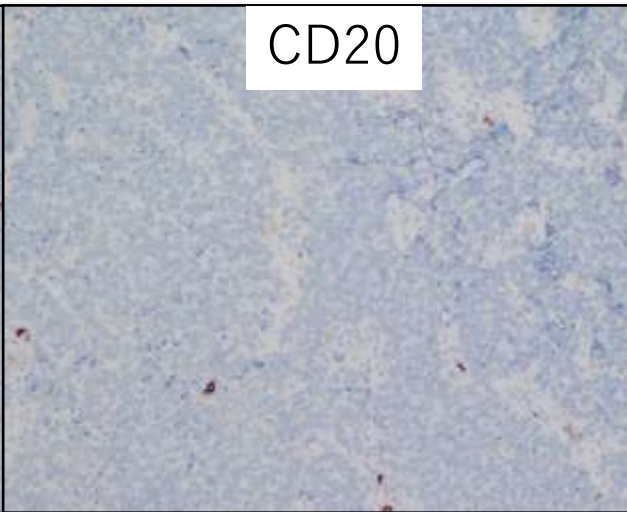
p40



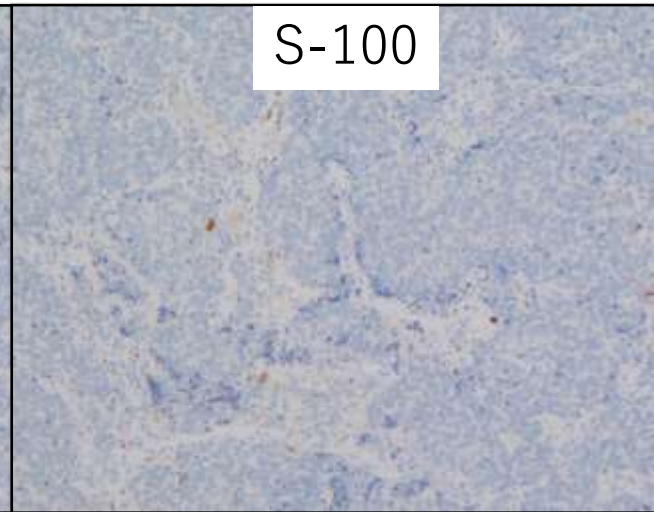
CD3



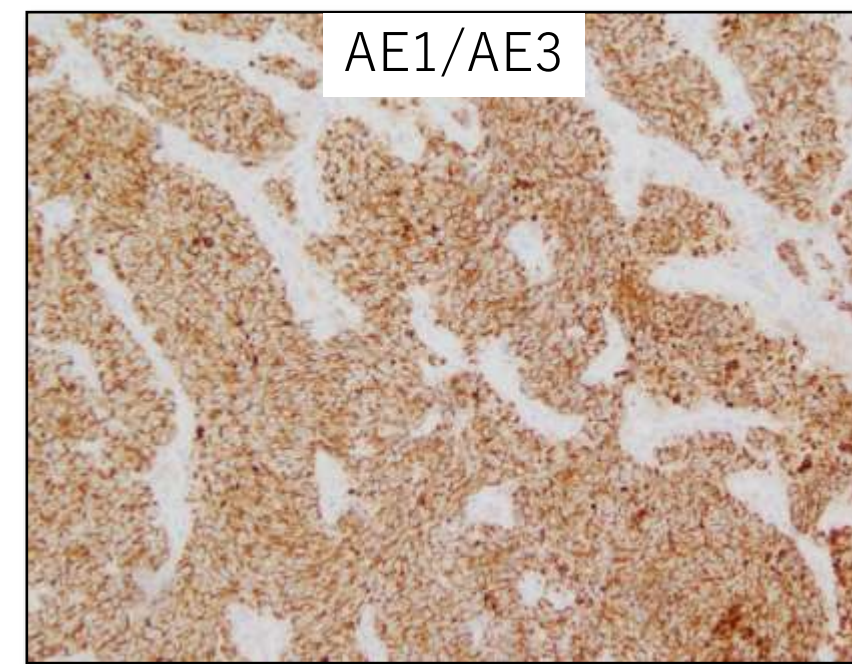
CD20



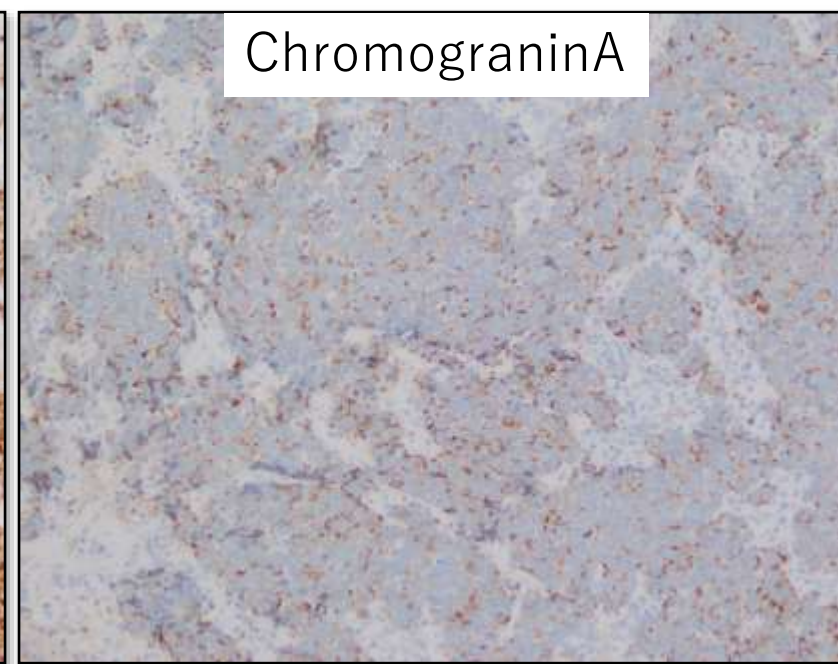
S-100



AE1/AE3



ChromograninA



Synaptophysin



組織診

Metastasis of large cell neuroendocrine carcinoma

選択肢

1. 腺癌
2. 扁平上皮癌
3. 甲状腺乳頭癌
4. 腺様嚢胞癌
5. 神経内分泌癌（大細胞神経内分泌癌）
6. 悪性リンパ腫
7. 横紋筋肉腫

神経内分泌腫瘍

肺癌の4大組織型は、腺癌、扁平上皮癌、神経内分泌腫瘍、大細胞癌となり、大細胞神経内分泌癌が神経内分泌腫瘍に取り込まれた。

神経内分泌腫瘍 neuroendocrine tumor (NET)は、神経内分泌分化を示す上皮性腫瘍として編成され、亜型には、小細胞癌、大細胞神経内分泌癌、定型および異型カルチノイド腫瘍、びまん性特発性肺神経内分泌細胞過形成が含まれる。

高悪性度NETは、60歳代後半以降の高齢男性、重喫煙者が多く、血中ProGRP、NSEが腫瘍マーカーである。

びまん性特発性肺神経内分泌細胞過形成（DIPNECH）

- 気管支上皮、肺胞腔に局限する神経内分泌細胞の増殖性病変であり、カルチノイド腫瘍の前腫瘍性病変
- 50～60歳代の女性に多い
- 症状なし、あり（乾性咳嗽、息切れ）
- CT：モザイク状肺野病変、気管支、細気管支の壁肥厚
- 組織学的：神経内分泌細胞が気管支、細気管支などの上皮内を線状に増生する、肺胞腔内を埋めるように充実性に増殖する。神経内分泌マーカー陽性。

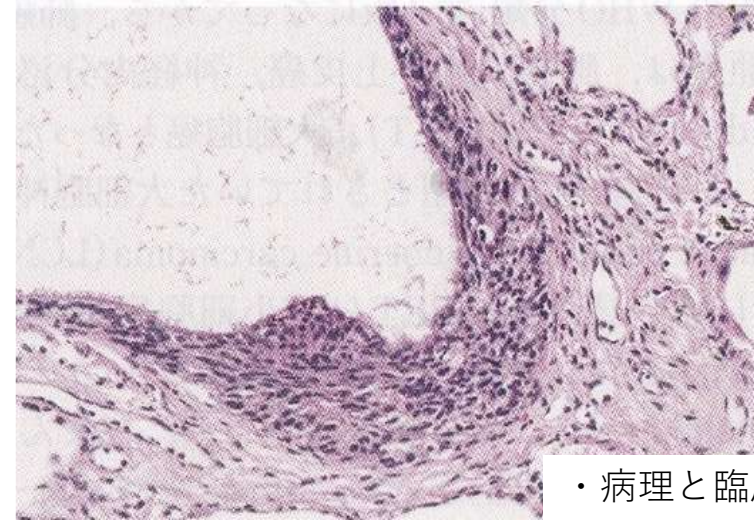


表 8-15 神経内分泌腫瘍 (NET) 各亜型の特徴 (文献 28, 70, 71 より作成)

		小細胞癌	大細胞神経内分泌癌	異型カルチノイド	定型カルチノイド
悪性度		高悪性度	高悪性度	中悪性度	低悪性度
生存率		2 年 : 10%	5 年 : 33% (Stage I)	5 年 : 60%	5 年 : 85% 以上
リンパ節転移		高率	高率	50%	10~15%
遠隔転移		高率	高率	20%	3~5%
疫 学	年齢	高齢	高齢	中年~高齢	
	喫煙との関連	あり	あり	不明	なし
	性差	男性優位	男性優位	女性優位? (性差なし)	
	頻度 (原発性肺癌)	10~20% 稀	1.6~3% 非常に稀	<1% 非常に稀	
組織所見	腫瘍細胞の大きさ	比較的小型	大型	小型	小型
	N/C 比	高い	低い	低い	低い
	クロマチン	繊細	粗~微細顆粒状	細顆粒状 (ゴマ塩状)	細顆粒状 (ゴマ塩状)
	核小体	目立たない	明瞭	様々	様々
	核分裂像 (/2mm ²)	11 個以上	11 個以上	2~10 個*	0~1 個
	壊 死	あり 時に広範囲	あり 時に広範囲	あってもよい* 小範囲	なし

* : 異型カルチノイドは, 核分裂像か壊死の一方の基準を満たせば診断してよい.

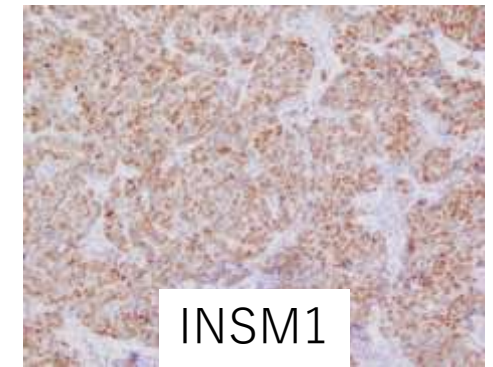
大細胞神経内分泌癌（LCNEC）

【定義】

神経内分泌分化を示唆する組織学的特徴を示し、典型的には空胞状で核小体をもつ核と豊かな細胞質をもつ大型細胞よりなる高悪性度の上皮性腫瘍。小細胞癌とともに神経内分泌癌の1つであり、神経内分泌分化を免疫組織化学的染色などで確認する必要がある。

大細胞神経内分泌癌（LCNEC）：組織学的

- ・ 神経内分泌形態：類器官構造、索状、ロゼット様構造、柵状配列など
- ・ 腫瘍細胞：大きい、中等度～豊かな細胞質
- ・ 核：空胞状、クロマチンは粗造～微細顆粒状
- ・ 核小体が目立つことが多い
- ・ 核分裂像平均75個程度
- ・ 壊死みられる
- ・ 神経内分泌マーカー：chromogranin A、synaptophysin、CD56
INSM1、ASCL1

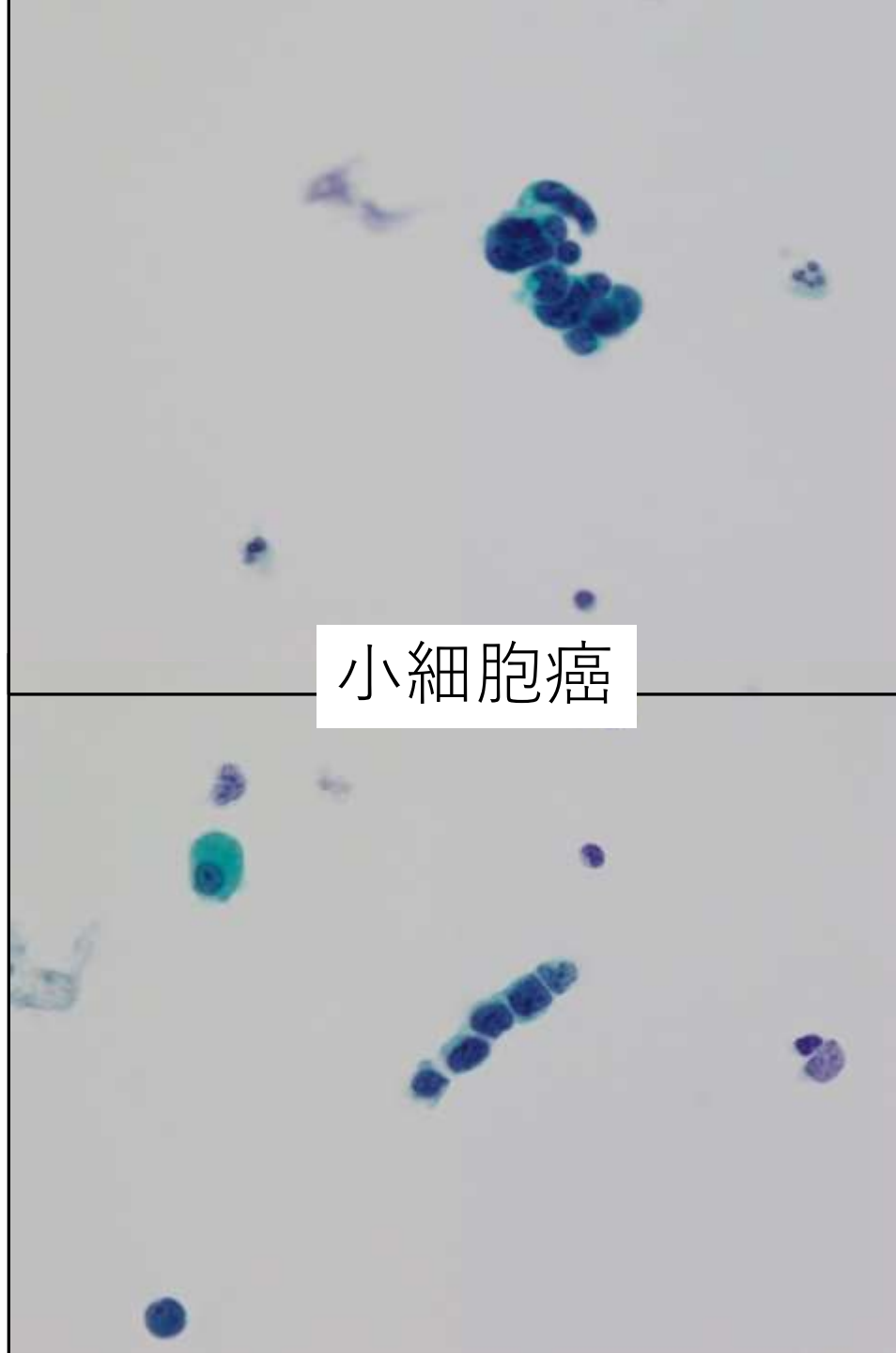


大細胞神経内分泌癌（LCNEC）：細胞学的

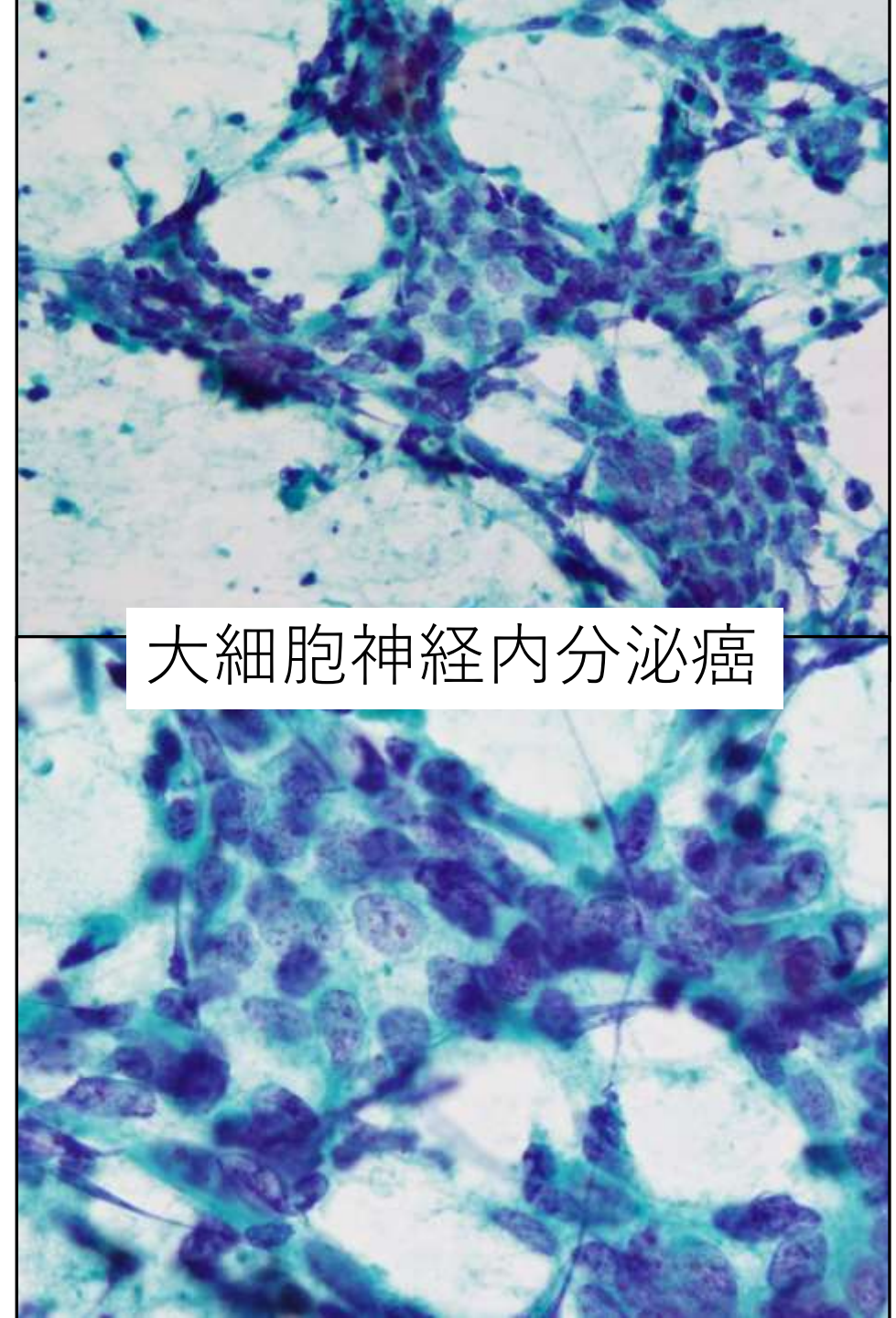
- ・ 出現様式 : 集塊状、平面的、孤在性、神経内分泌形態（ロゼット様構造、柵状配列など）
- ・ 大きさ : 中等度～大型
- ・ 細胞質 : 明瞭な細胞質、裸核状細胞
- ・ 核 : 円形～類円形、多角形、大小不同、核濃縮細胞
- ・ クロマチン : 細顆粒状、粗大顆粒状
- ・ 核小体 : 1～数個で明瞭、不明瞭な場合あり
- ・ 背景 : 壊死、核線化
- ・ その他 : 核分裂像あり

表 2. 大細胞神経内分泌癌と小細胞癌の細胞所見の比較

細胞所見		大細胞神経内分泌癌	小細胞癌
壊死背景		あり	あり
核濃縮細胞		あり	あり
核線		あり	あり
細胞	大きさ	中～ <u>大</u>	小～中
	形	円形, <u>多角形</u>	円形, 紡錘形
	豊富な細胞質	<u>あり</u>	稀
	クラスター	あり	あり
	孤立性細胞	あり	あり
	核の鑄型	あり	多い
核	ロゼット配列	<u>あり</u>	稀
	形	円形, 類円形, <u>多角形</u>	円形, 類円形, 紡錘形
	裸核	あり	しばしば
	大小不同	<u>あり</u>	目立たない
	クロマチン	細～粗顆粒状	細～粗顆粒状
	核小体の数	<u>1～数個</u>	目立たない



小細胞癌

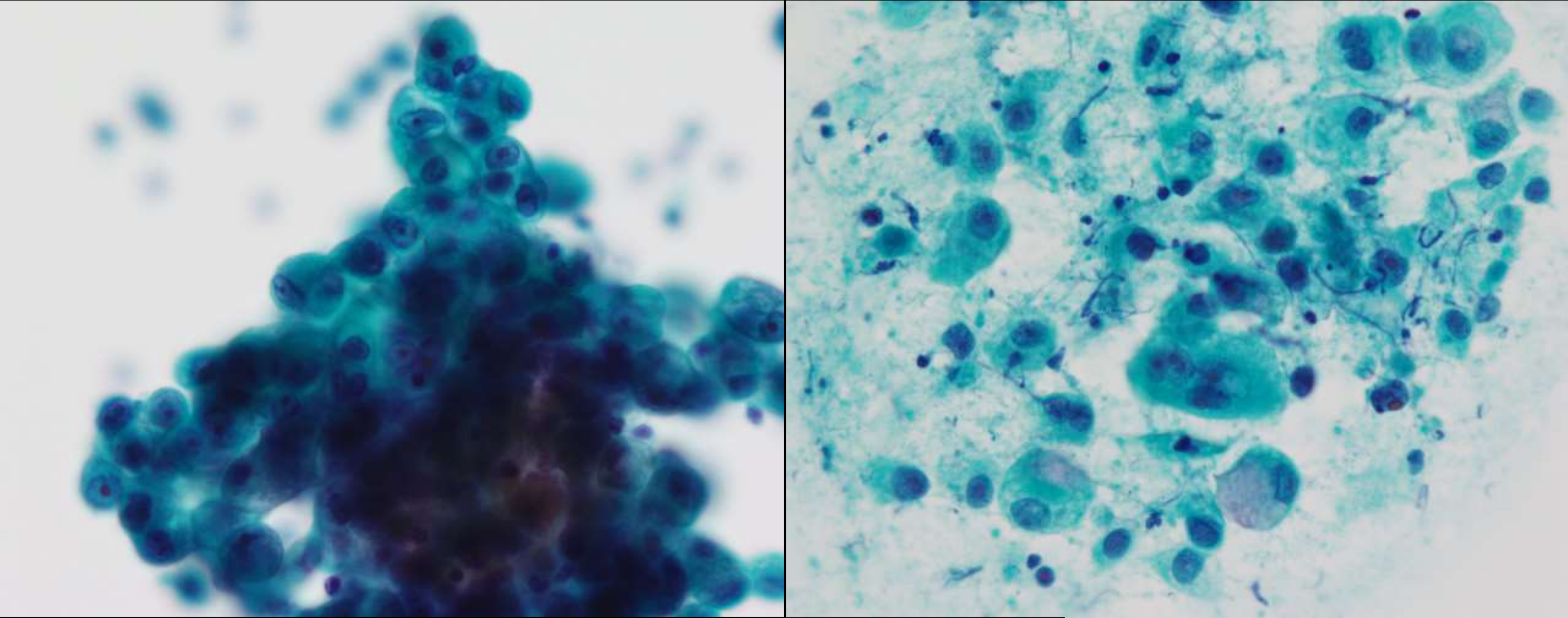


大細胞神經内分泌癌

選択肢

1. 腺癌
2. 扁平上皮癌
3. 甲状腺乳頭癌
4. 腺様嚢胞癌
5. 神経内分泌癌（大細胞神経内分泌癌）
6. 悪性リンパ腫
7. 横紋筋肉腫

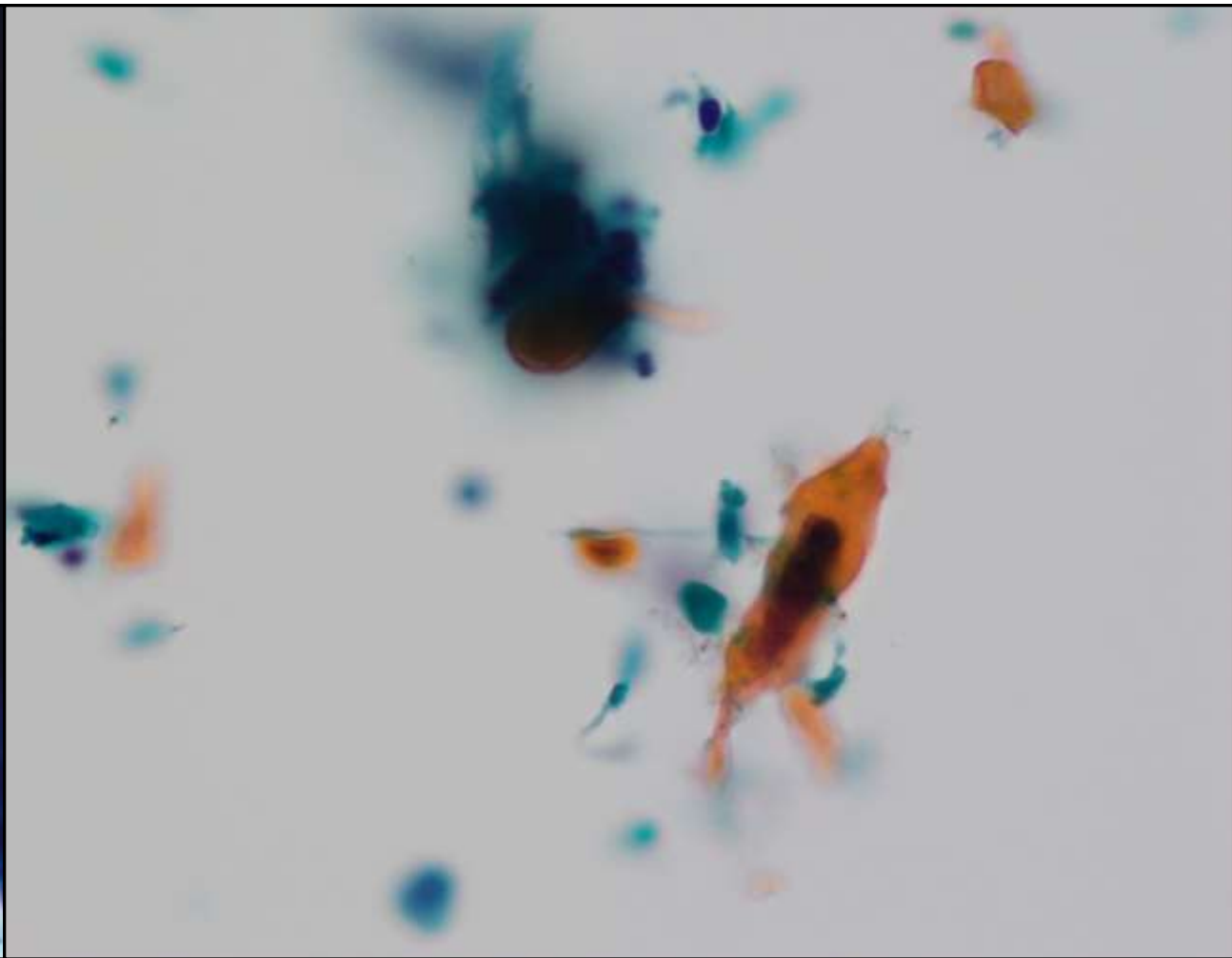
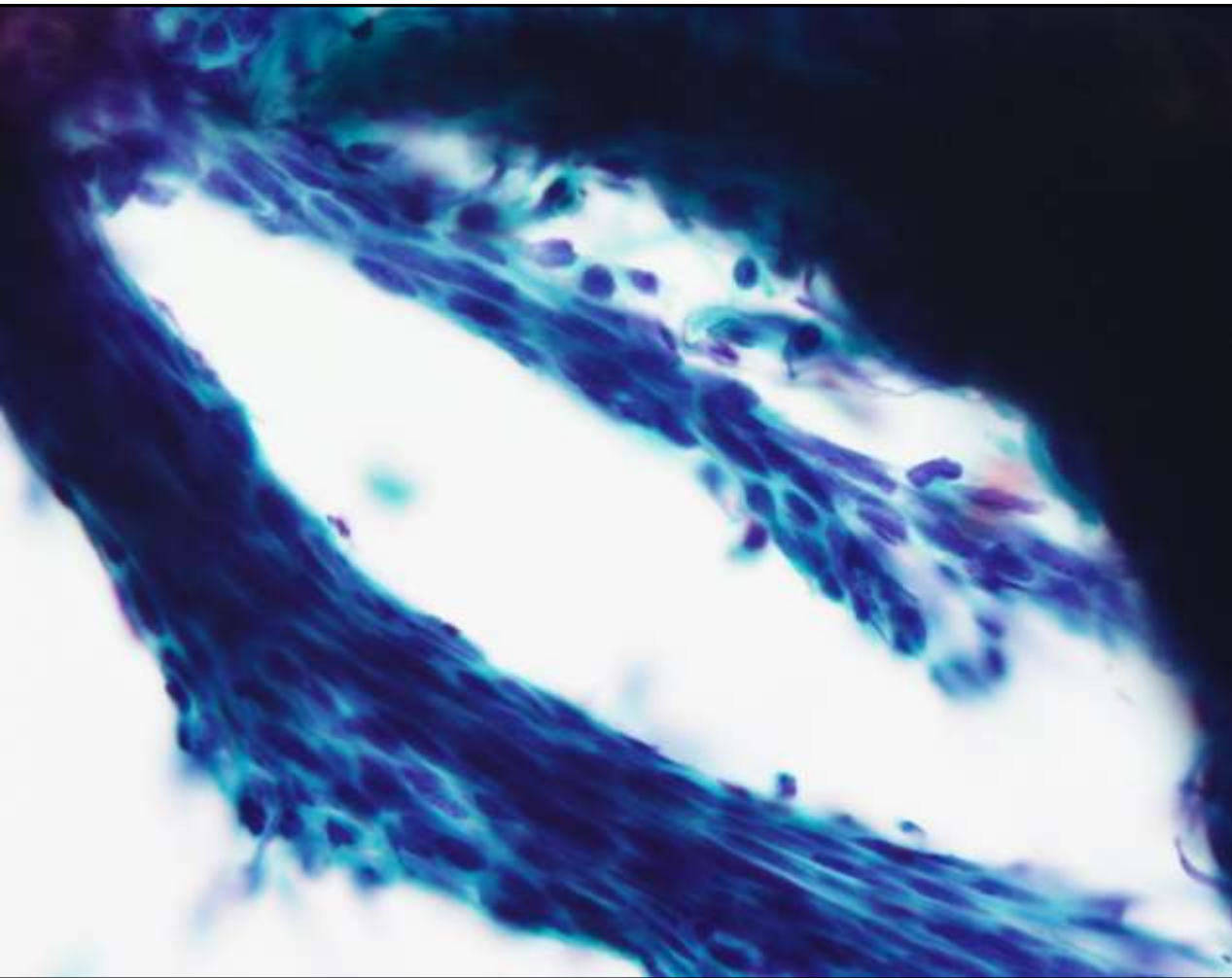
【腺癌】



腺癌

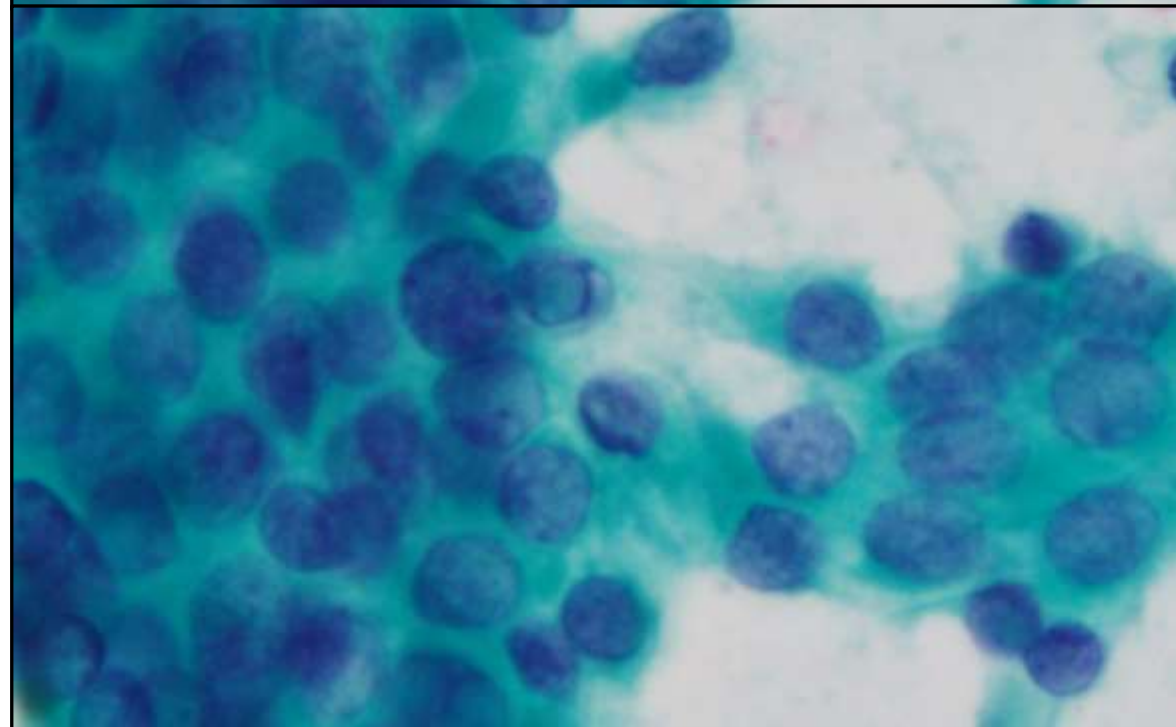
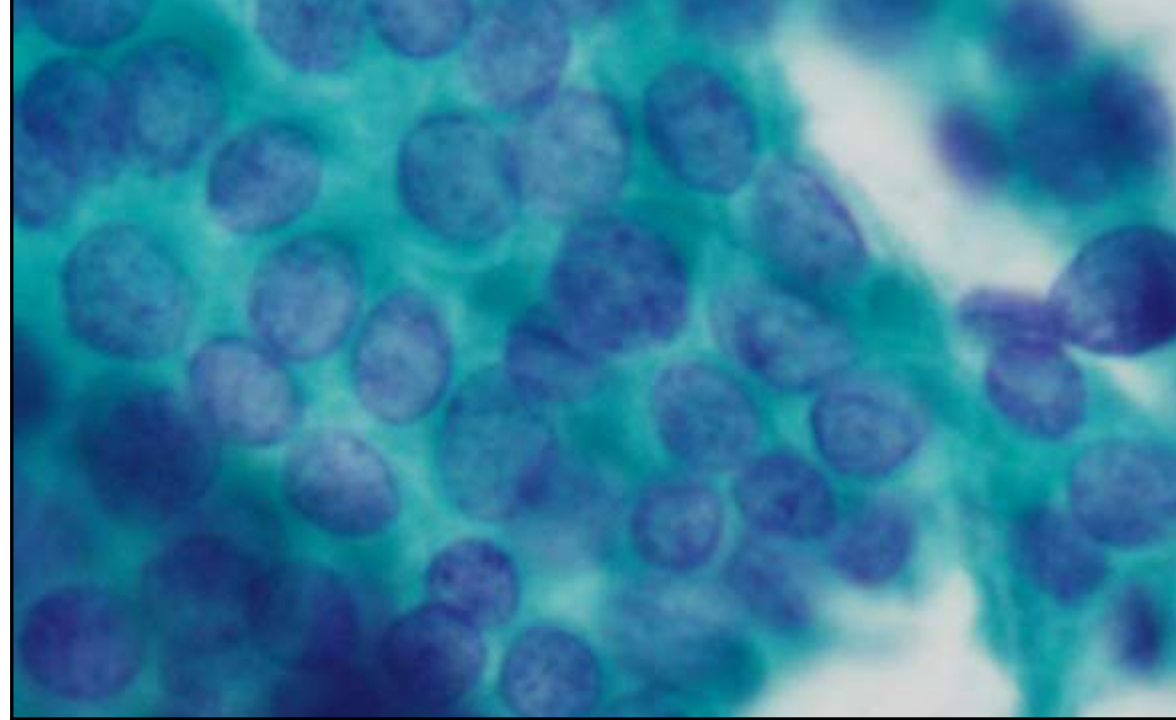
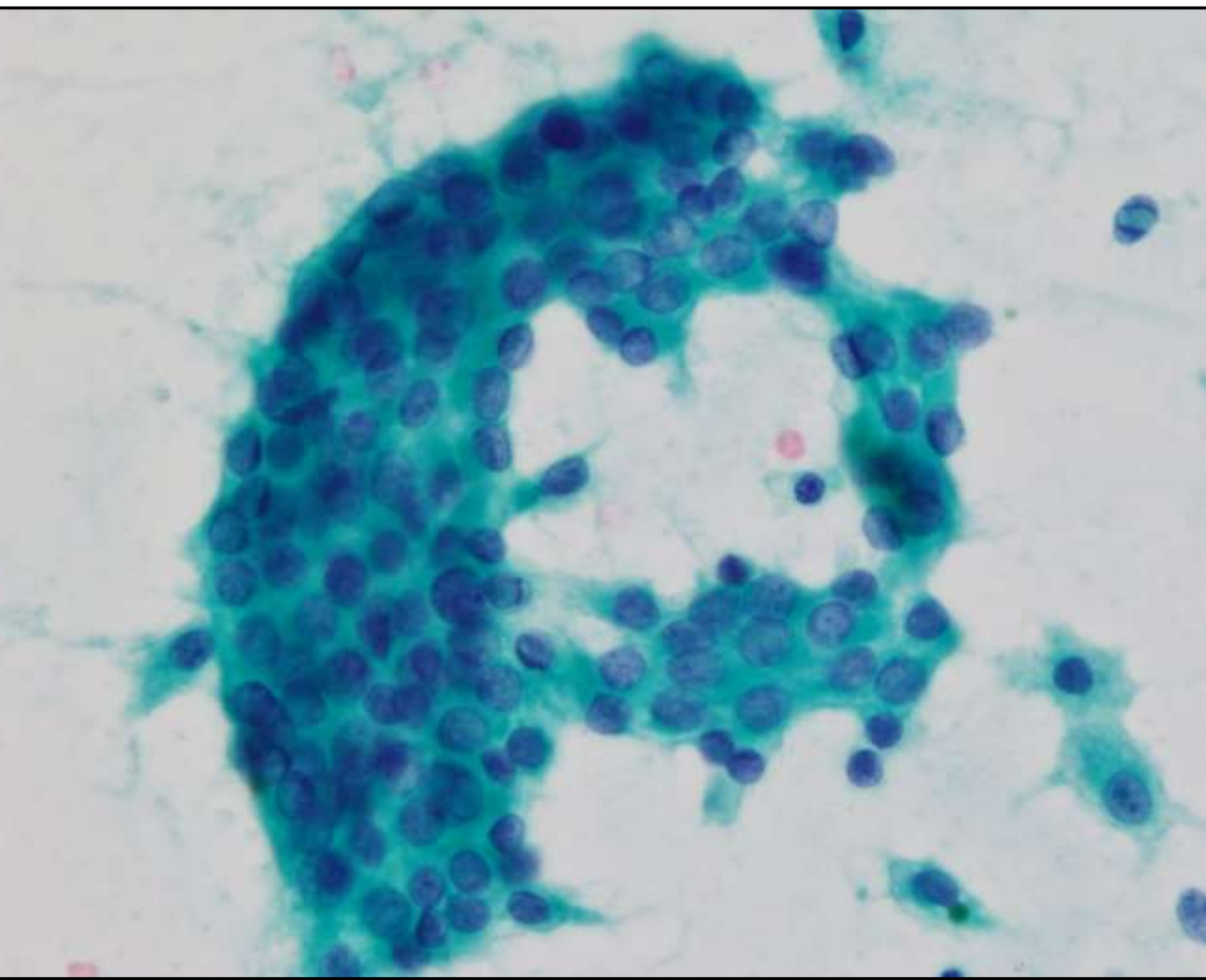
- ・核偏在性、核形不整、核小体明瞭
- ・重積性～結合性緩い
- ・細胞質（泡沫状、レース状）・粘液

【扁平上皮癌】



扁平上皮癌
・ 流れ様配列 ・ 奇形なOG好性 ・ ghost cell

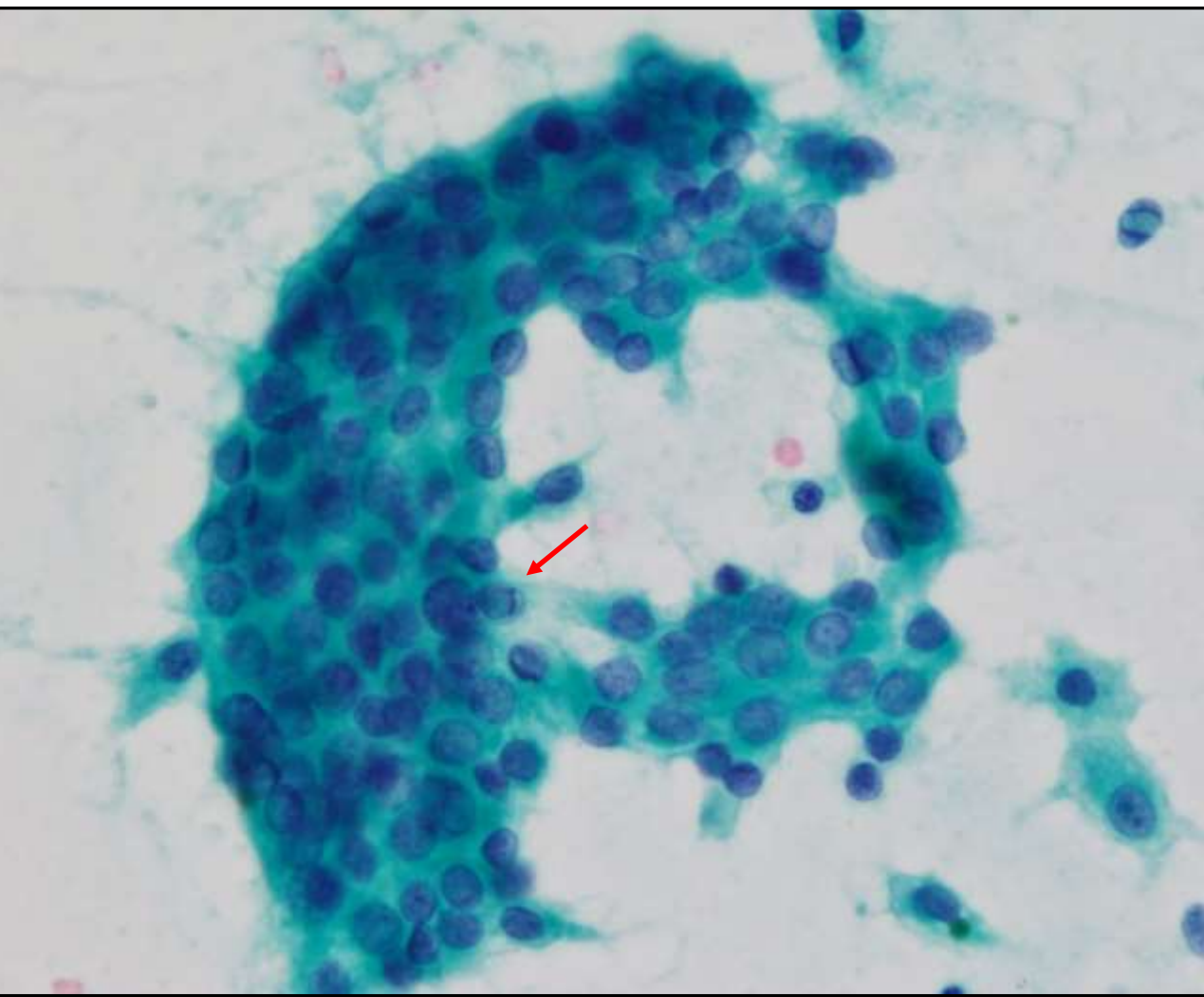
【甲状腺乳頭癌】



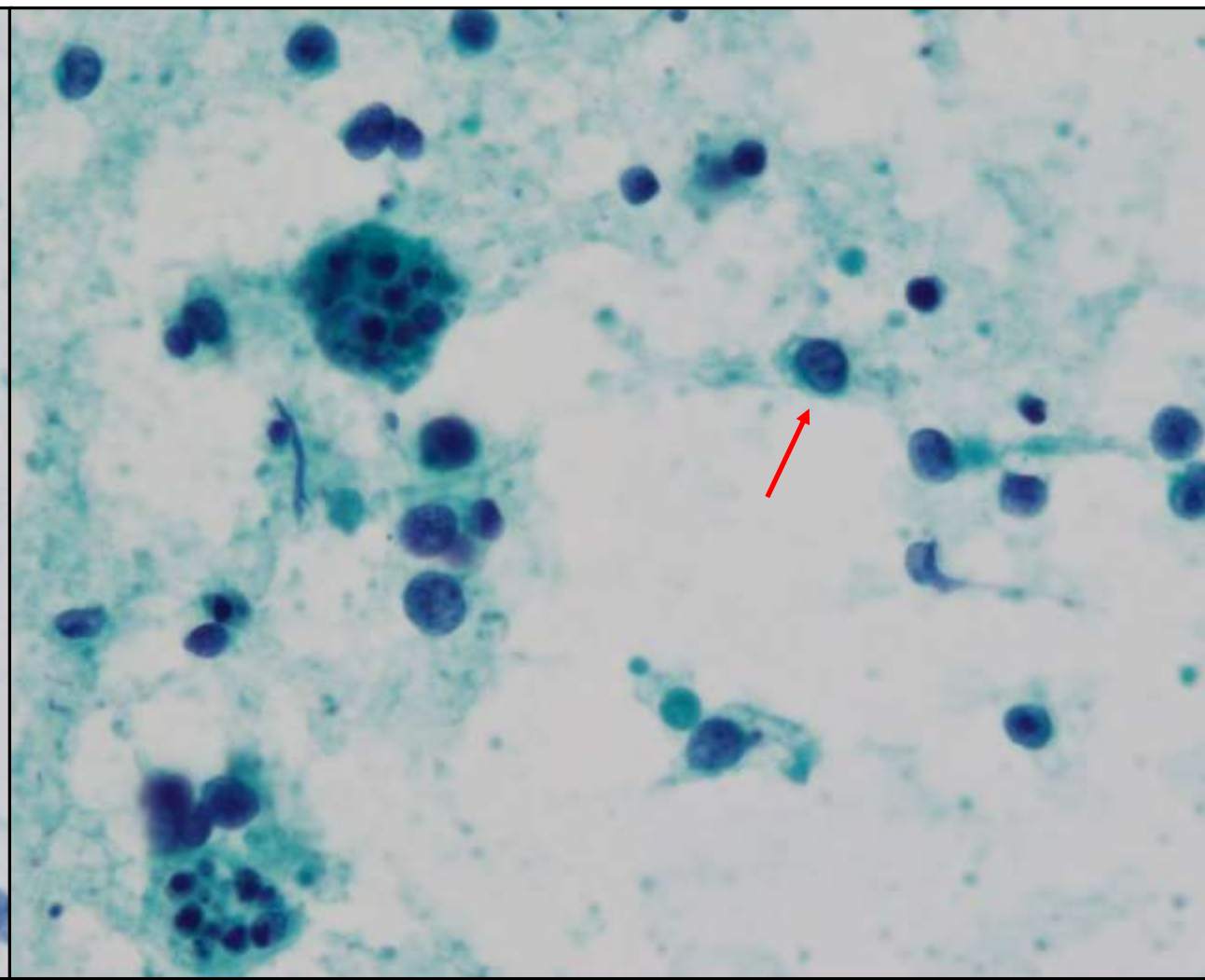
甲状腺乳頭癌

・核溝・核内細胞質封入体・スリガラス状核

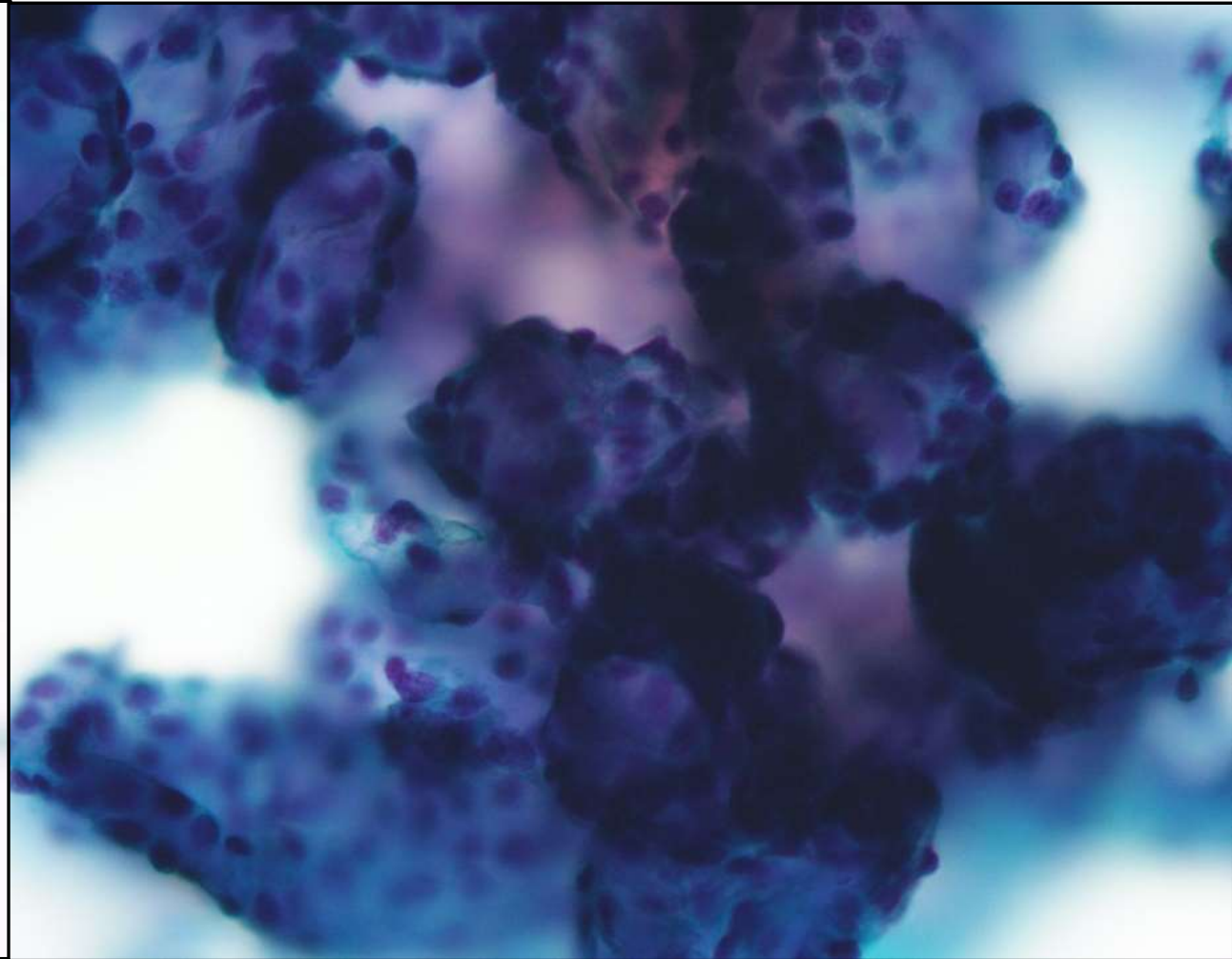
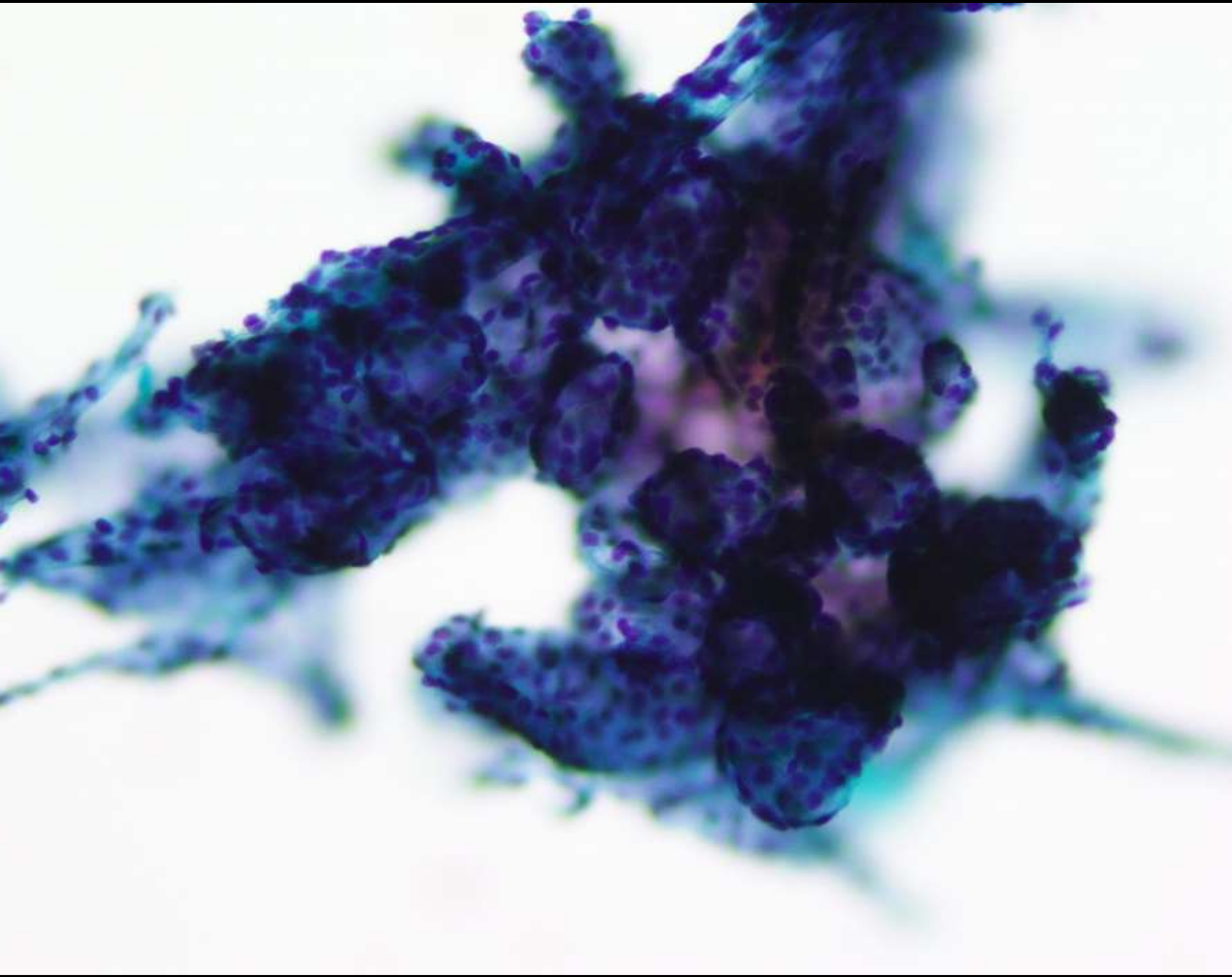
【甲状腺乳頭癌】



【本症例】



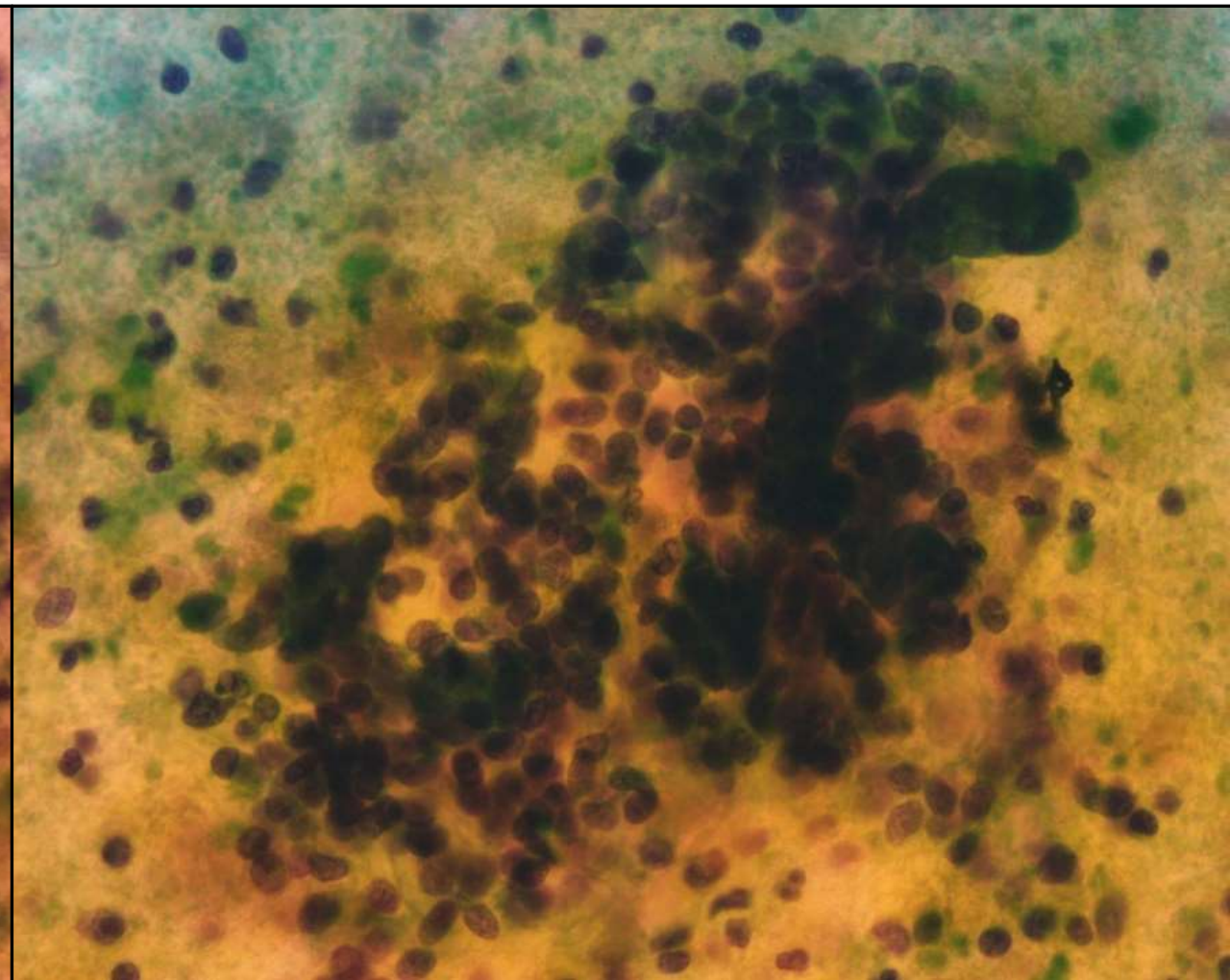
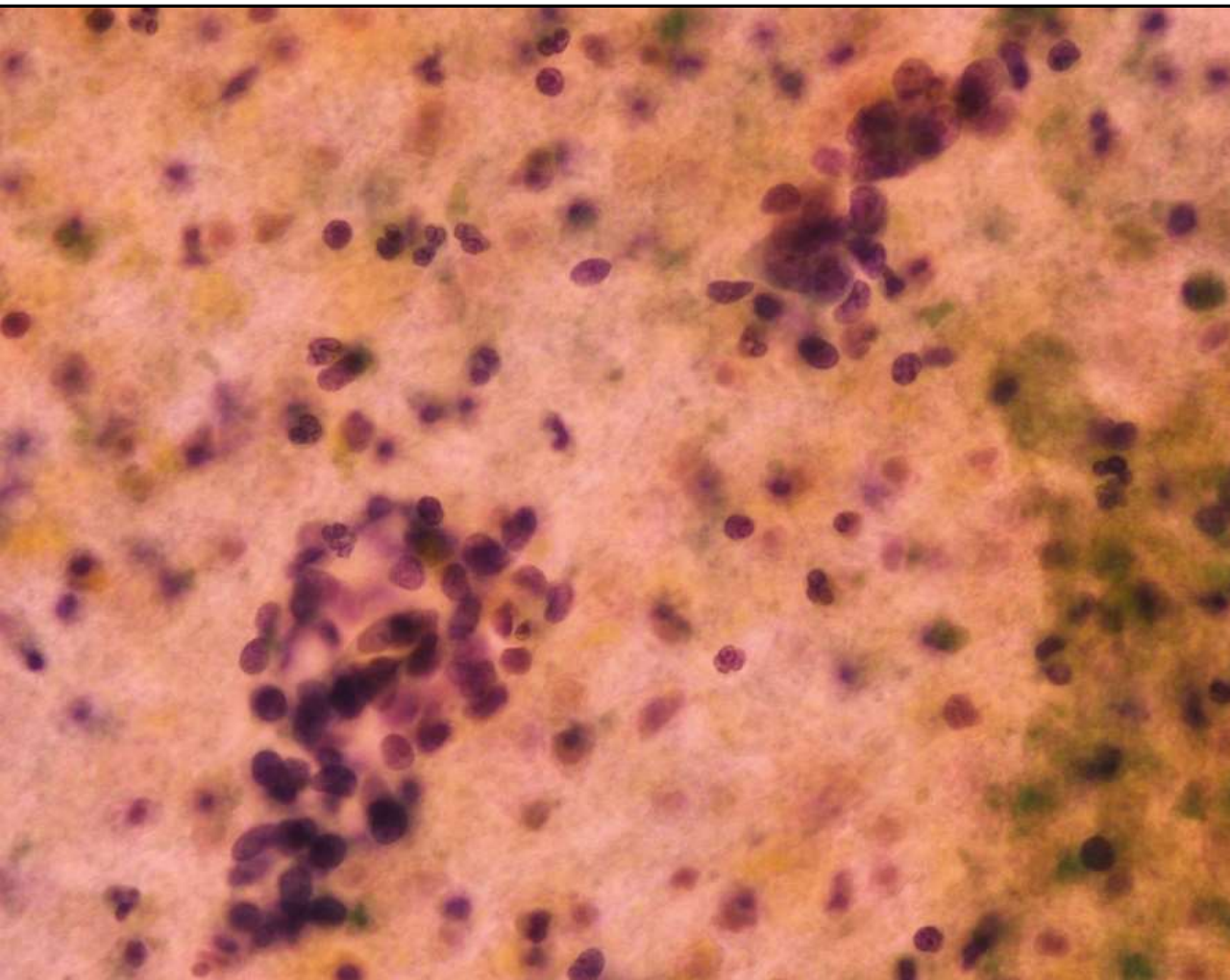
【腺様嚢胞癌】



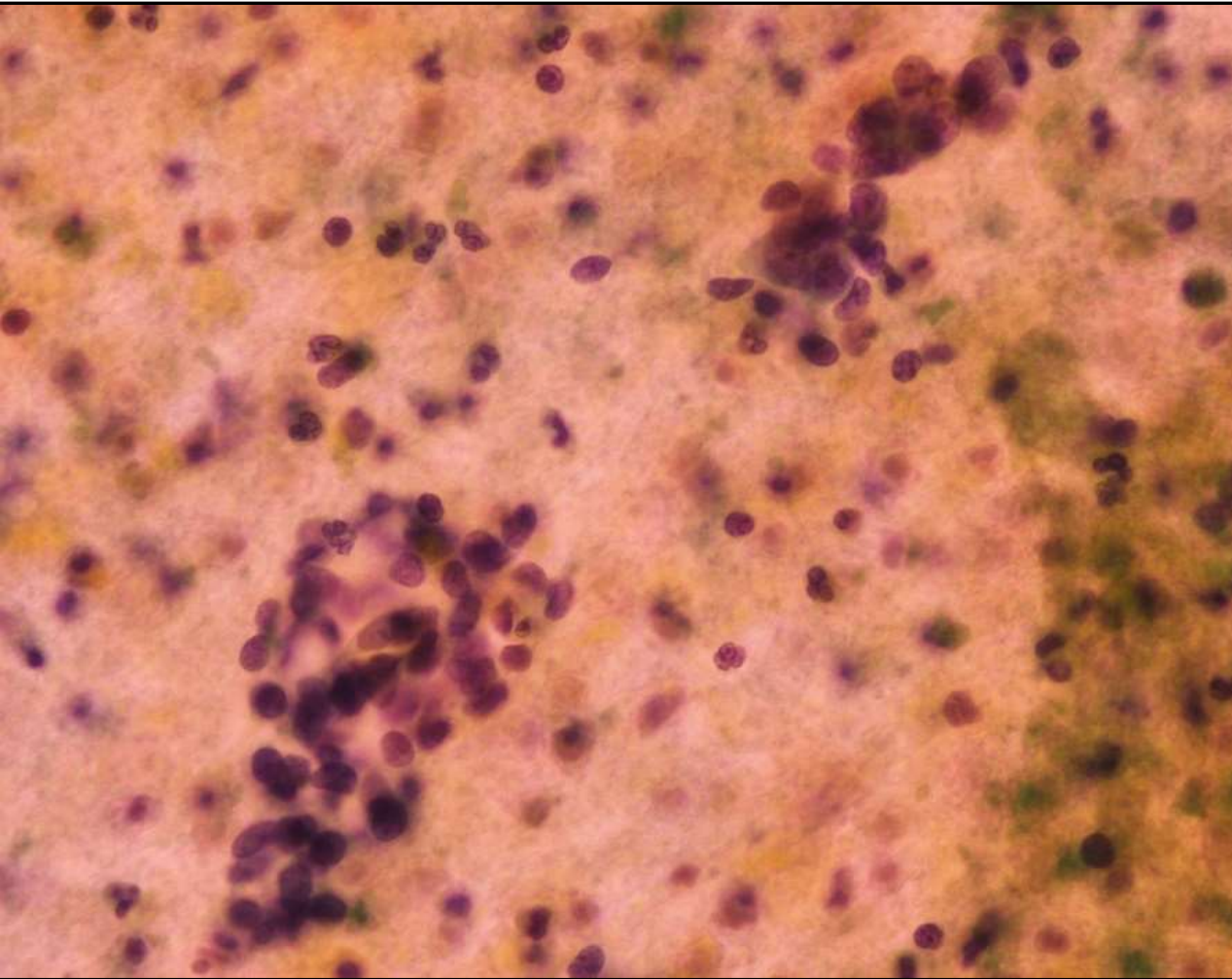
腺様嚢胞癌

- ・ 篩状、球状、管状、シート状の配列を示す
- ・ 間質性粘液（異染性） ・ 小型で円形～類円形、細胞異型乏しい
- ・ 細胞質に乏しい ・ 濃縮状、細顆粒状クロマチン

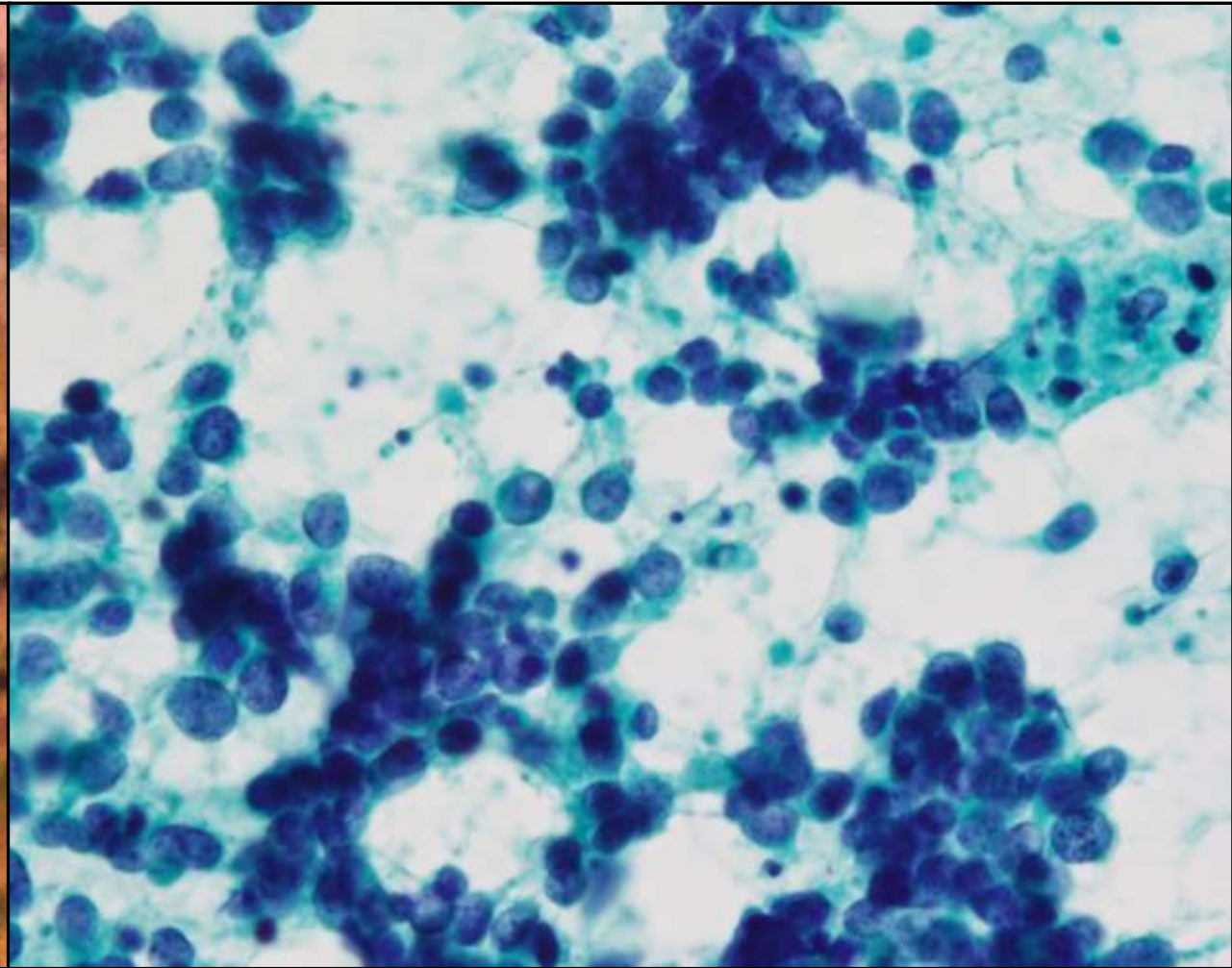
【腺様嚢胞癌】



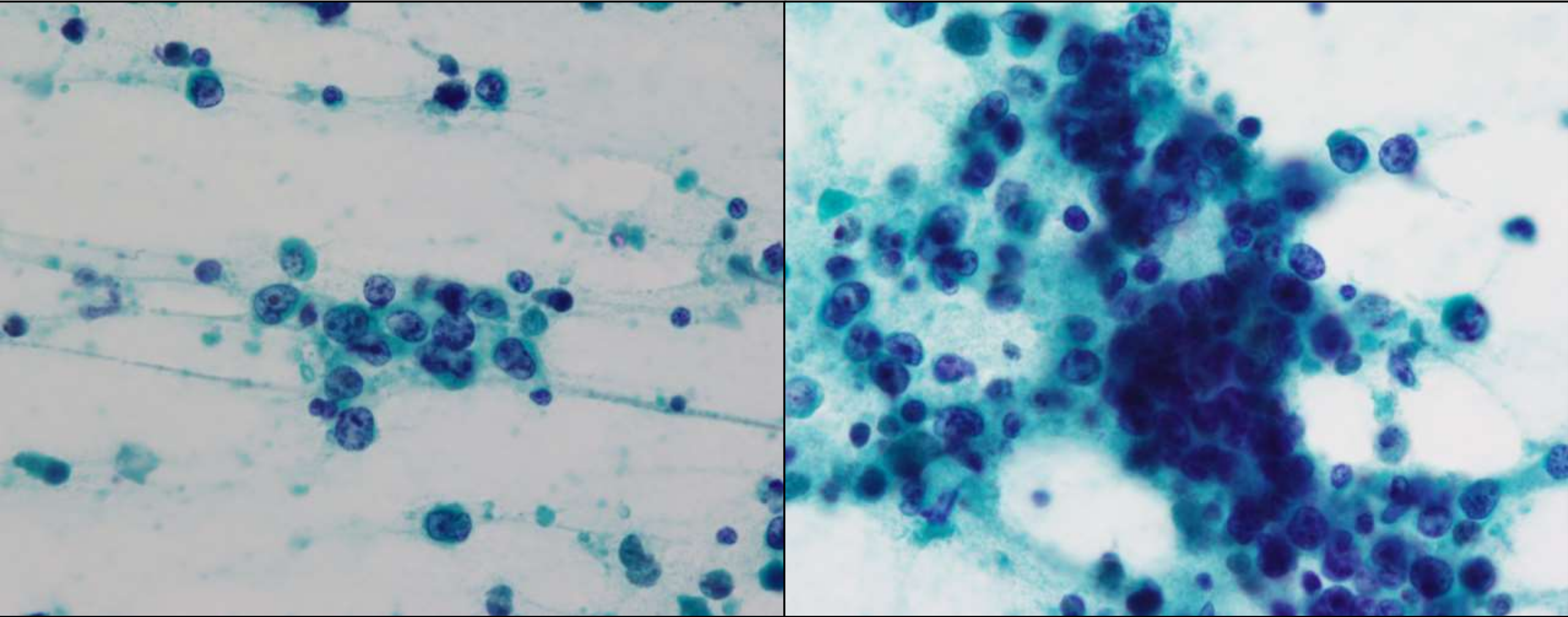
【腺様嚢胞癌】



【本症例】

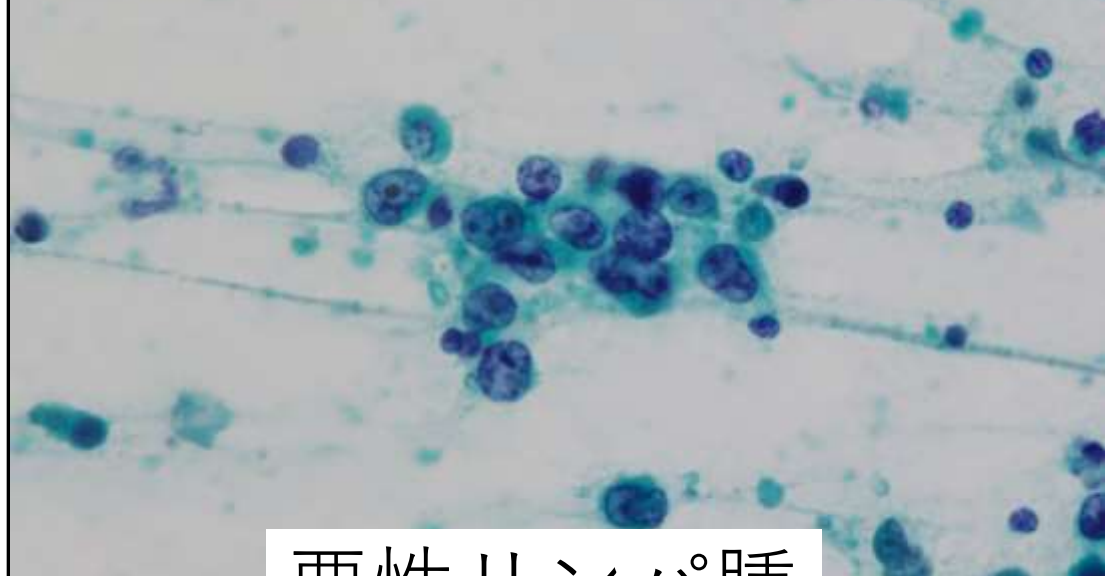


【悪性リンパ腫】

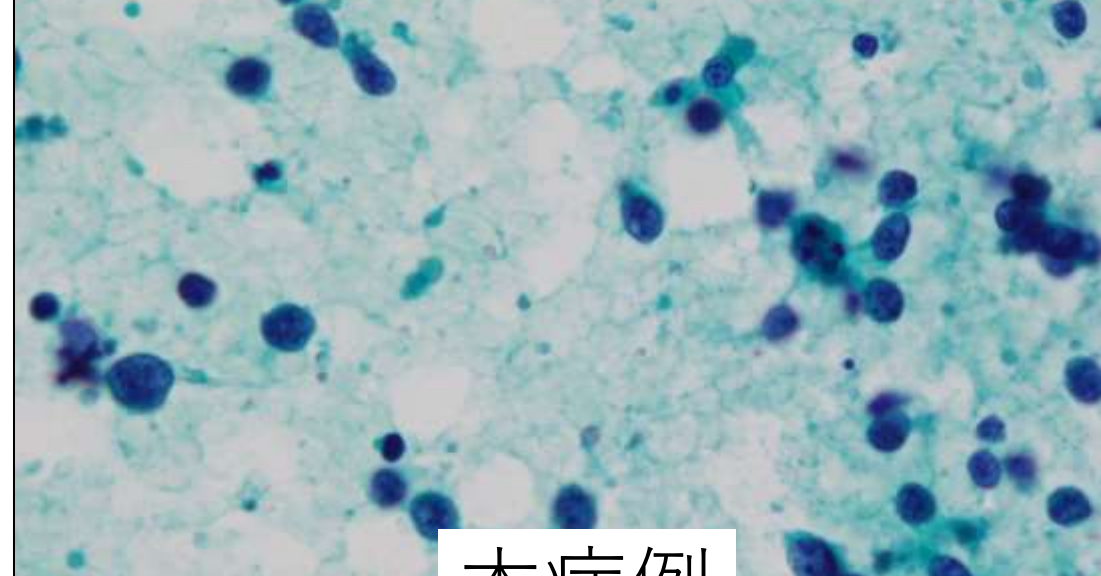
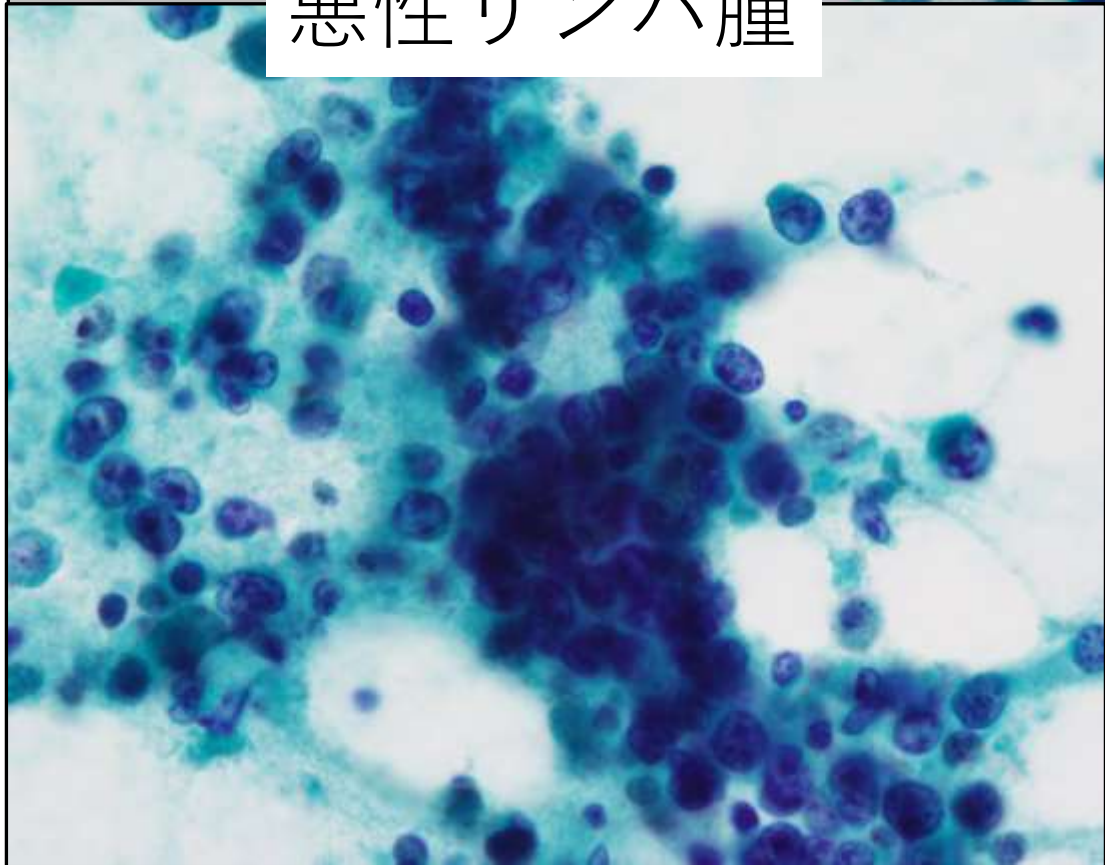


悪性リンパ腫

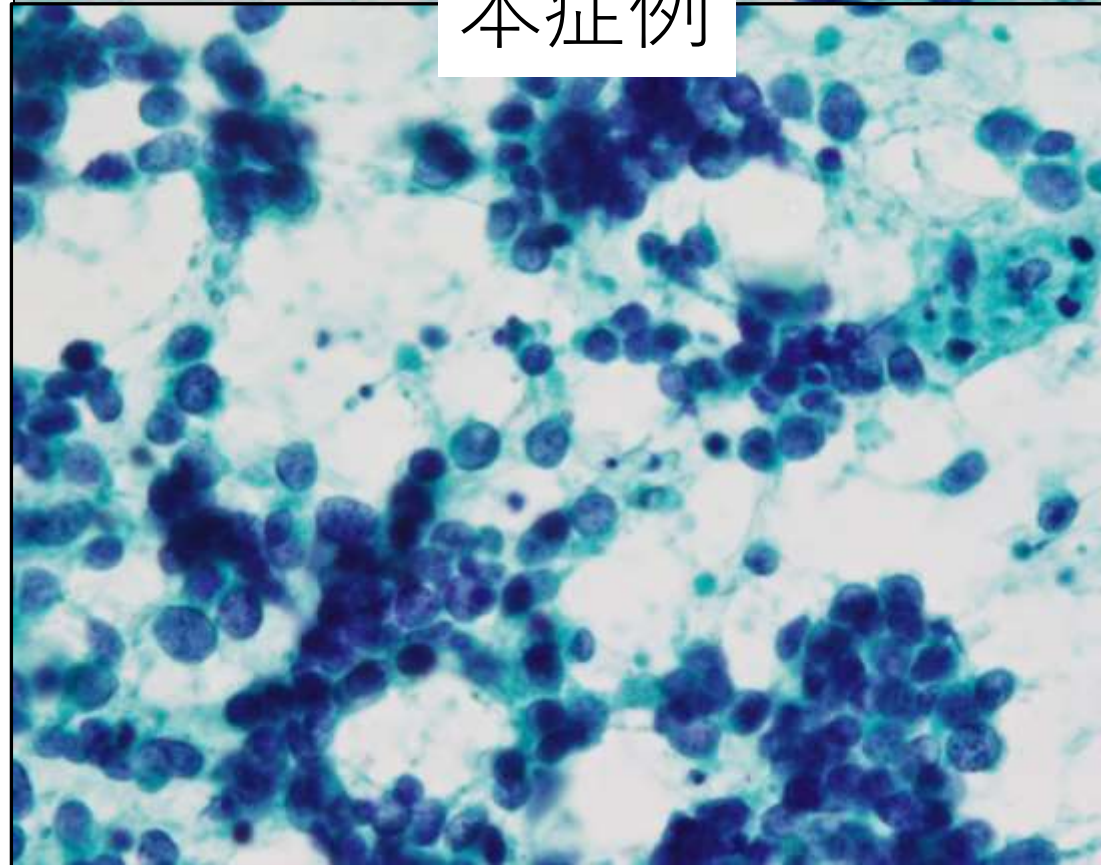
・ 孤在性・ N/C比高い・ 核形不整（くびれ、分葉状・ 繊細なクロマチン・ 核小体明瞭



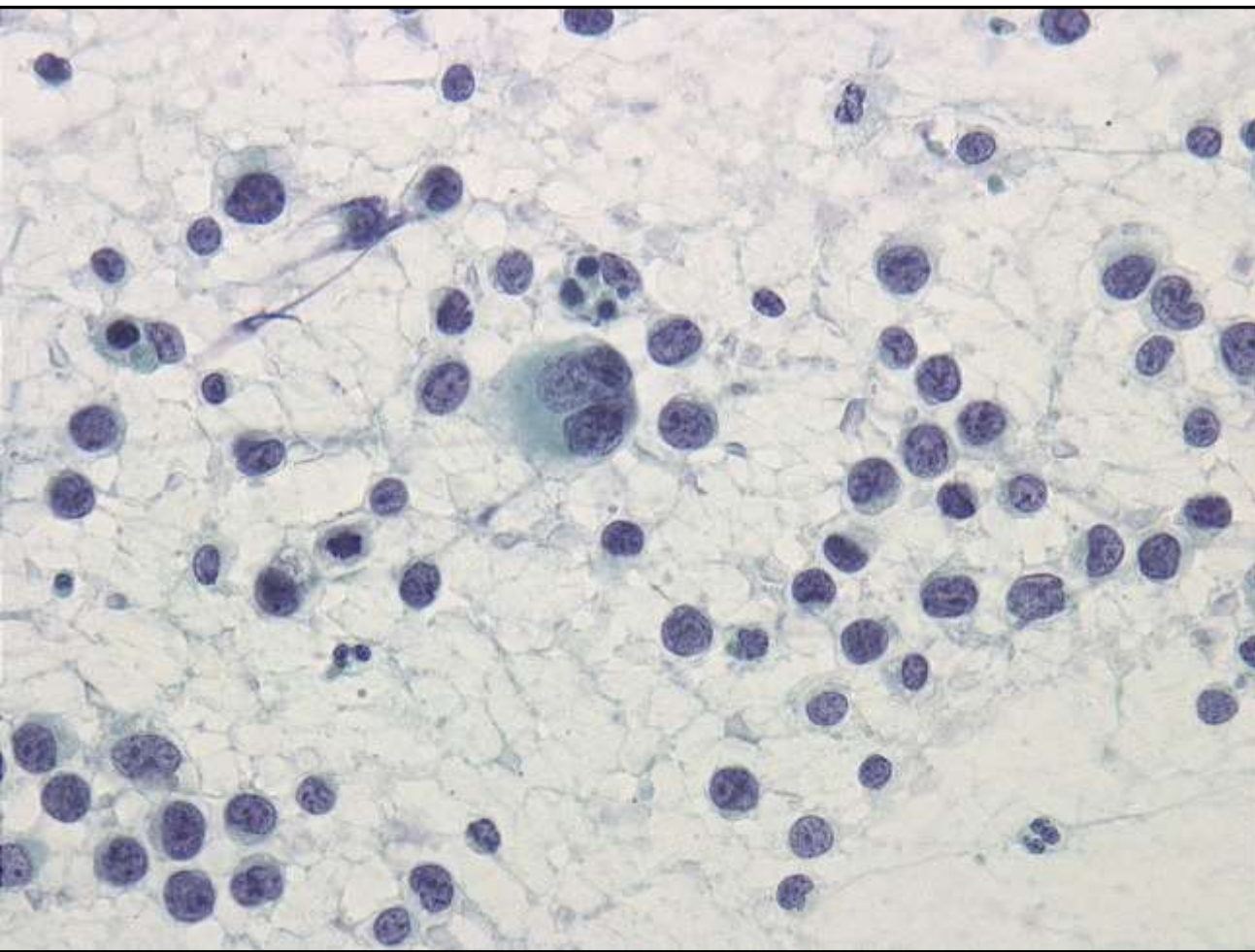
悪性リンパ腫



本症例



【横紋筋肉腫】

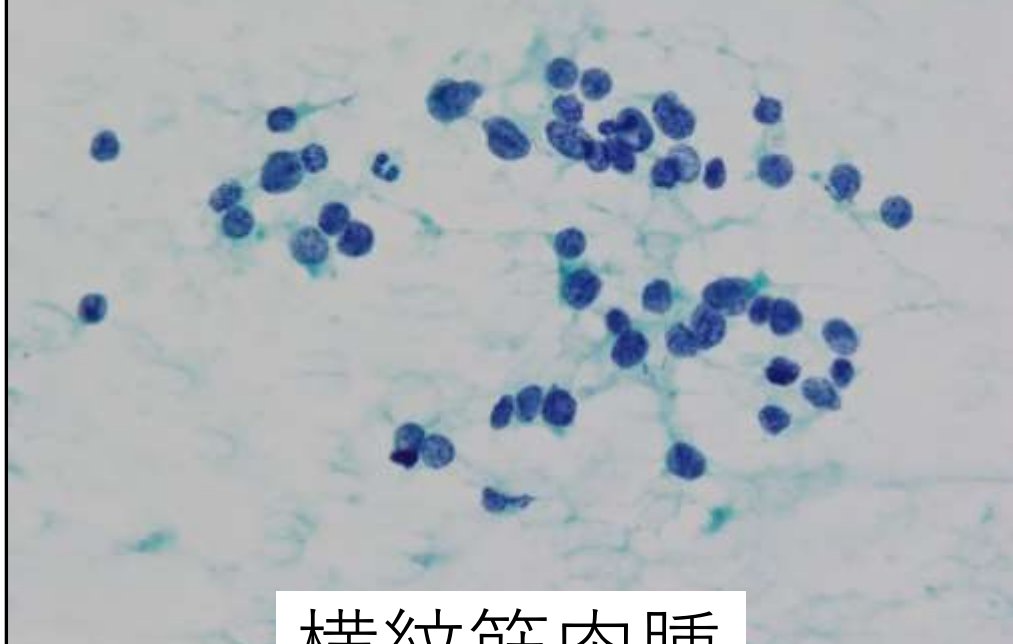


横紋筋肉腫

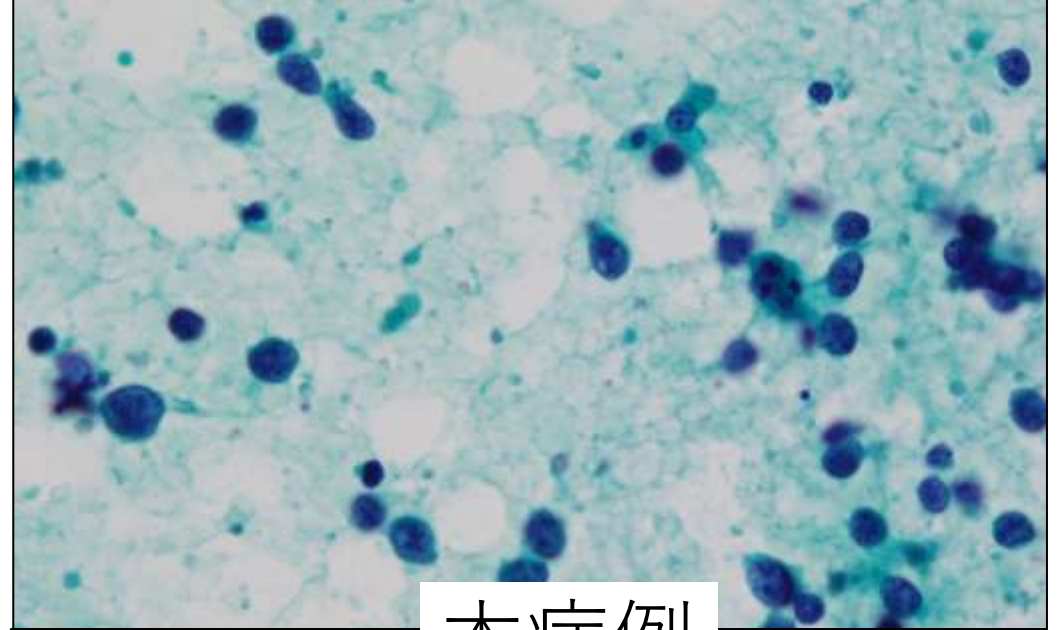
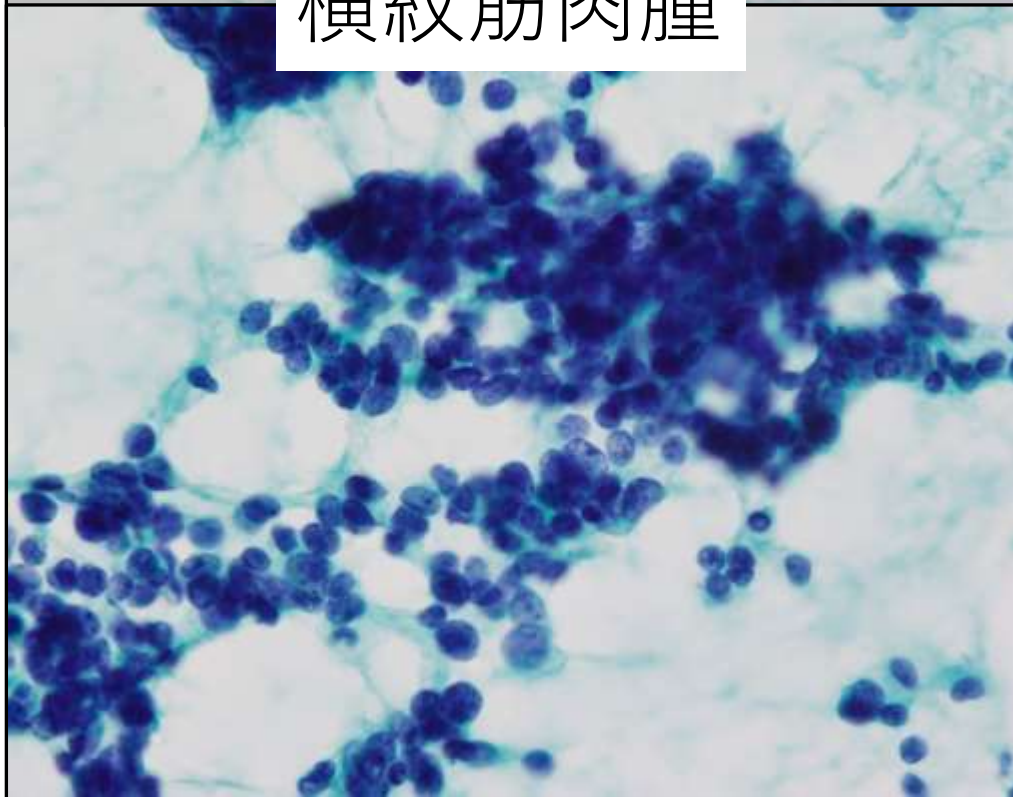
- ・胎児型：5歳未満に好発
頭頸部、後腹膜、泌尿生殖器に多い
- ・胞巣型：年長児から若年成人に好発
四肢の深部組織に好発、頭頸部、後腹膜、傍脊柱、会陰部にも頻度が高い
- ・多形型：60歳以降に好発
深部軟部組織に好発し、下肢に多い
- ・紡錘形細胞/硬化性：幅広い年齢に発生
頭頸部が頻度高い

横紋筋肉腫

- ・孤在性・小型N/C比高い・細胞質をもつ多核細胞



横紋筋肉腫



本症例

